

景況などに関する会員アンケート

調査結果

平成 28 年 4 月

北陸経済連合会

目 次

1. アンケート調査実施概要	1
2. アンケート調査結果概要	2
総括	2
I. 景気動向	3
II. 業績	5
III. 設備投資	7
IV. その他	9
参考（アンケート調査結果）	10
I. 景気動向	10
II. 業績	13
III. 設備投資	16
IV. その他（2015年度採用活動について）	20
（大学生のインターンシップについて） ..	25

1. アンケート調査実施概要

○実施概要

北陸の景気動向や業況その他について、会員の意見、要望を迅速かつ的確に把握し、各方面への要望活動に活かすため、北陸地域の景況などに関するアンケート調査を実施した。[今回で35回目]

以下、その結果を報告する。

○調査時期

平成28年2月19日～3月3日

○調査対象

北陸経済連合会会員企業

○回収率

回答率56.4%（送付企業296社、回収数167社）

○調査企業概要

本社の所在地	回収数	割合
富山県	65	38.9%
石川県	53	31.7%
福井県	19	11.4%
北陸三県以外	30	18.0%
計	167	100.0%

資本金	回収数	割合
1億円未満	62	37.1%
1億円～10億円未満	38	22.8%
10億円以上	67	40.1%
計	167	100.0%

調査結果の取りまとめにおいては、規模別を以下の基準で分類することとする。

【規模別】

- 大企業：資本金10億円以上
- 中堅企業：資本金1億円以上10億円未満
- 中小企業：資本金1億円未満

	業種	回収数	割合
製 造 業	食料品製造業	3	1.8%
	繊維工業	3	1.8%
	木材・紙・パルプ製造業	1	0.6%
	出版・印刷・同関連業	4	2.4%
	化学工業	6	3.6%
	鉄鋼業・非鉄金属製造業	5	3.0%
	金属製品製造業	9	5.4%
	機械工業	8	4.8%
	その他製造業	19	11.4%
	小計	58	34.7%
非 製 造 業	卸売業	15	9.0%
	小売業	5	3.0%
	建設業	31	18.6%
	電気・ガス・水道業	3	1.8%
	運輸業	6	3.6%
	農・林・漁業	0	0.0%
	鉱業	0	0.0%
	金融業・保険業	18	10.8%
	不動産	2	1.2%
	サービス業	17	10.2%
	その他の非製造業	12	7.2%
小計	109	65.3%	
計	167	100.0%	

2. アンケート調査結果概要

[総 括]

北陸の景気動向 ……足もとは概ね回復基調にあることがうかがえるが、 今後は、悪化を見込む企業が増加

- ・現在の北陸地域の景気については、「すでに回復」「回復基調」とみる企業が、52.7%で、前回調査(70.4%)を下回ったものの、「底這い」「下降」とみる企業(39.0%)を上回っている。
- ・27年度下期の景気について、景気判断BSI（「良くなった」と答えた割合から「悪くなった」を引いた値）でみると、12.0（前回52.6）と下降している。
また、来期（28年度上期）の見通しについては▲10.1と、悪化を見込む企業が増えている。
- ・なお、現在の景気が「底這い」「下降」とした企業のうち、約半数(46.2%)の企業が28年度中に回復に転じるとみている。

業績 ……全体として悪化傾向にあるが、来期は改善を見込む企業が増加

- ・現在の業績水準については、「大変良い」「良い」とみている企業が29.3%と、「悪い」「大変悪い」とみている企業を上回ったが、前回調査（38.5%）からは悪化傾向にある。
- ・27年度下期の業績について、業績判断BSI（「改善」と答えた割合から「悪化」を引いた値）でみると、今期は▲0.6と、前回調査（18.3）からマイナスとなっている。
また、規模別では、大企業が▲7.5(前回33.4)、中堅企業が▲2.6(前回7.0)、中小企業が8.1(前回10.0)となり、特に大企業において、業績が悪化したとする企業が増加している。
- ・来期（28年度上期）の見通しについては5.4と、改善を見込む企業が増加している。
- ・経営上の課題としては、「人材養成・確保」（74.3%）が最も多く、次いで「国内販売力の強化」（56.3%）となっている。

設備投資 ……現状の設備水準は適正とする企業が多数で、28年度の 設備投資見通しは27年度とほぼ同様の傾向

- ・現在の設備水準については、「適正である」と答えた企業が72.5%で、前回調査（75.6%）を下回り、「過剰」「不足」がそれぞれ微増となっている。
- ・設備投資の前年対比については、27年度は「増加した」と答えた企業（33.5%）が「減少した」と答えた企業（15.6%）を上回った。28年度の見込みについても、「増加する」と答えた企業（29.9%）が「減少する」と答えた企業（18.6%）を上回った。

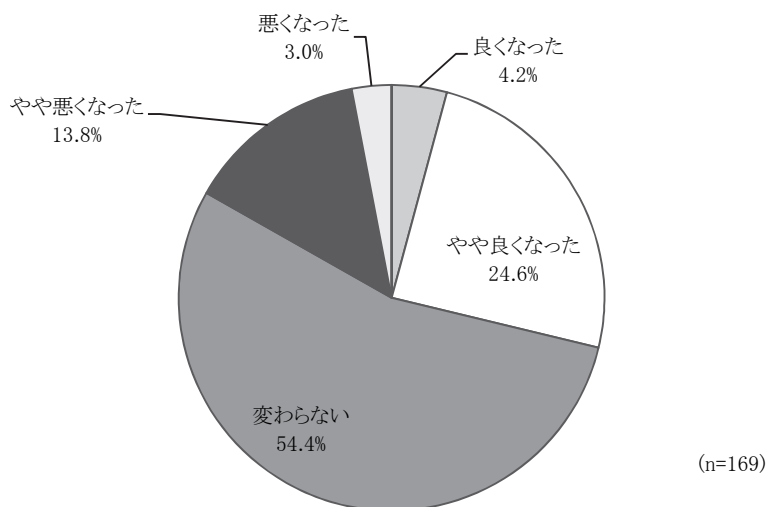
その他

- ・2015年度採用活動（2016年4月新卒者等）では77.8%が採用しており、採用者の構成としては製造業では大学修士、学部卒が同程度、非製造業では大学学部卒が多く採用されている。
- ・達成度・満足度（印象）が低かった理由については、就職活動時期変更の影響、内定辞退者の増加、採用目標未達、大手企業の大量採用等があげられた。また、その是正のための対応では採用活動時期の変更、説明会等への参加強化、内定辞退を防ぐ取組強化、企業の魅力アップ・相互理解深化、採用活動の強化等の意見があった。
- ・大学生のインターンシップの受け入れについては55.1%の企業に経験があり、規模別に見ると大企業(59.7%)、中堅企業(63.2%)に比べ中小企業では45.2%と低下する。

I. 景気動向

足もとは概ね回復基調にあることがうかがえるが、
 今後は、悪化を見込む企業が増加

- ・ 27年度下期の景気動向については、前期（27年度上期）と比べて「良くなった」「やや良くなった」と答えた企業が28.8%で、「やや悪くなった」「悪くなった」の16.8%を上回っている。また、景気は変わらないとみている企業が半数以上を占めている。（図表1）
- ・ 27年度下期の景気について、景気判断BSI（図表2、※）では12.0となり、前回調査の現状（27年度上期）判断の52.6から減少している。業種別にみると、製造業が12.1（前回51.7）、非製造業が11.9（前回53.2）と、どちらも悪化した。
- ・ 来期（28年度上期）の見通しについては ▲10.1（今期12.0）と、悪化を見込む企業が増加している。（図表2）
- ・ 27年度下期の北陸地域の景気については、「すでに回復」「回復基調」とみる企業が52.7%で、前回調査（70.4%）を下回ったものの、「底這い」「下降」と見る企業（39.0%）を上回っている。（図表3）
- ・ 現在の景気が「すでに回復」「回復基調」とした企業について、回復した理由を尋ねたところ、「企業収益の回復」が48.9%と最も多く、「個人消費の回復」が38.6%、「設備投資の回復」が28.4%で続いている。（図表4）
- ・ 一方、現在の景気が「底這い」「下降」とした企業に対し、今後回復に転じると予想される時期について尋ねたところ、28年度上期が7.7%、下期が38.5%、29年度上期が13.8%、下期以降とみる企業が16.9%となっている。（図表5）



図表2. 平成27年下期の景気判断と見通し

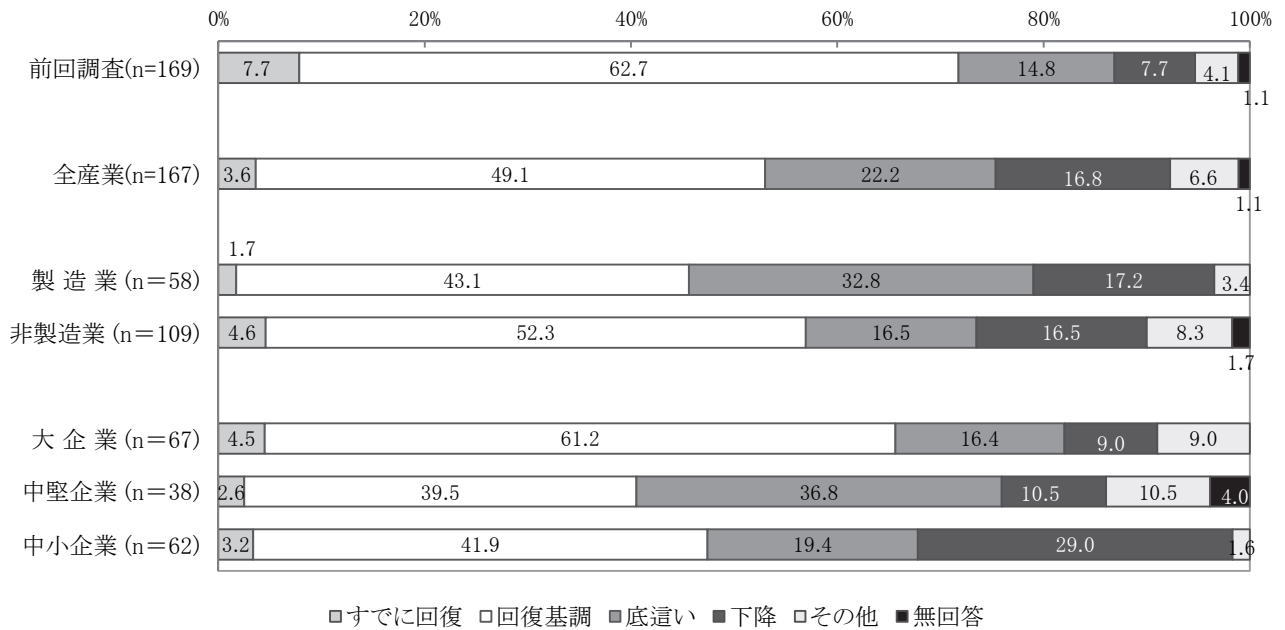
※景気判断BSI

（「良くなった」「やや良くなった」） - （「悪くなった」「やや悪くなった」）社数構成比 単位：%ポイント

	前回調査		今回調査			
	27年4～9月（前期）		27年10～3月（今期）		28年4～9月（見通し）	
	景気判断BSI	景気判断BSI	変化幅	景気判断BSI	変化幅	
全産業	52.6	12.0	▲ 40.6	▲ 10.1	▲ 22.1	
業種	製造業	51.7	12.1	▲ 39.6	0.0	▲ 12.1
	非製造業	53.2	11.9	▲ 41.3	▲ 15.5	▲ 27.4
規模	大企業	56.1	18.0	▲ 38.1	▲ 1.5	▲ 19.5
	中堅企業	55.8	0.0	▲ 55.8	▲ 23.6	▲ 23.6
	中小企業	46.7	12.9	▲ 33.8	▲ 11.2	▲ 24.1

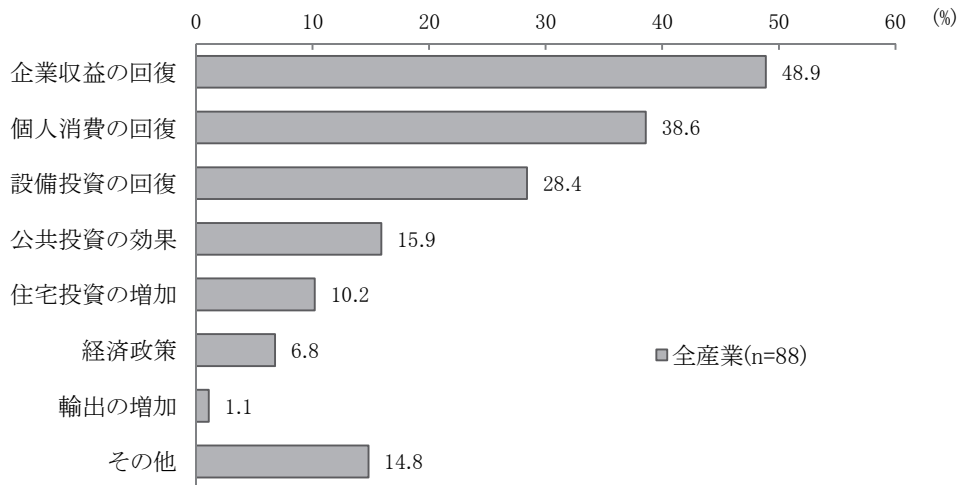
注) 27年10～3月(今期)の変化幅は27年4～9月(前期)との対比、28年4～9月(見通し)の変化幅は27年10～3月(今期)との対比。

図表3. 平成27年度下期の景気基調



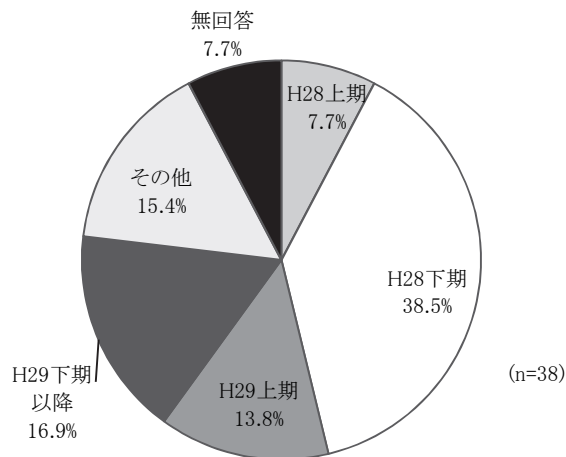
図表4. 平成27年度下期の景気が良い理由（複数回答）

景気が「すでに回復」「回復基調」と回答された企業



図表5. 北陸地域の景気が回復に転じる時期

景気が「底這い」「下降」と回答された企業



Ⅱ. 業績

全体として悪化傾向にあるが、来期は改善を見込む企業が増加

- 27年度下期の業績について、業績判断BSI（図表6 ※）の現状判断は、▲0.6となり、前回調査（27年度上期）の18.3から減少している。
- 業種別で見ると、製造業が1.7（前回24.1）、非製造業が▲1.8（前回15.3）と、どちらも大幅に減少している。
規模別では、大企業が▲7.5（前回33.4）、中堅企業が▲2.6（前回7.0）、中小企業が8.1（前回10.0）となり、特に、大企業において、業績が悪化したとする企業が増加している。（図表6）
- 来期（28年度上期）の見通しについては5.4と、改善を見込む企業が増加している。業種別で見ると、製造業、非製造業ともに今期からの改善を見込んでいる。また、規模別で見ると、大企業は9.0(今期▲7.5)と改善を見込む一方、中堅企業は▲5.2(今期▲2.6)と悪化を見込み、中小企業は8.0(今期8.1)となっている。（図表6）
- 現在の業績水準については、「大変良い」「良い」とみている企業が29.3%(前回38.5%)、「悪い」「大変悪い」とみている企業が24.6%(前回16.0%)となっており、業績水準は悪化の傾向にあることがうかがえる。（図表7）
- 経営上の課題では、「人材養成・確保」（74.3%）が最も多く、次いで「国内販売力の強化」（56.3%）となり、「新分野への進出」（37.7%）、「新商品の開発」（27.5%）がこれに続いている。（図表8）

図表6. 平成27年度下期の業績判断と見通し

※業績判断BSI

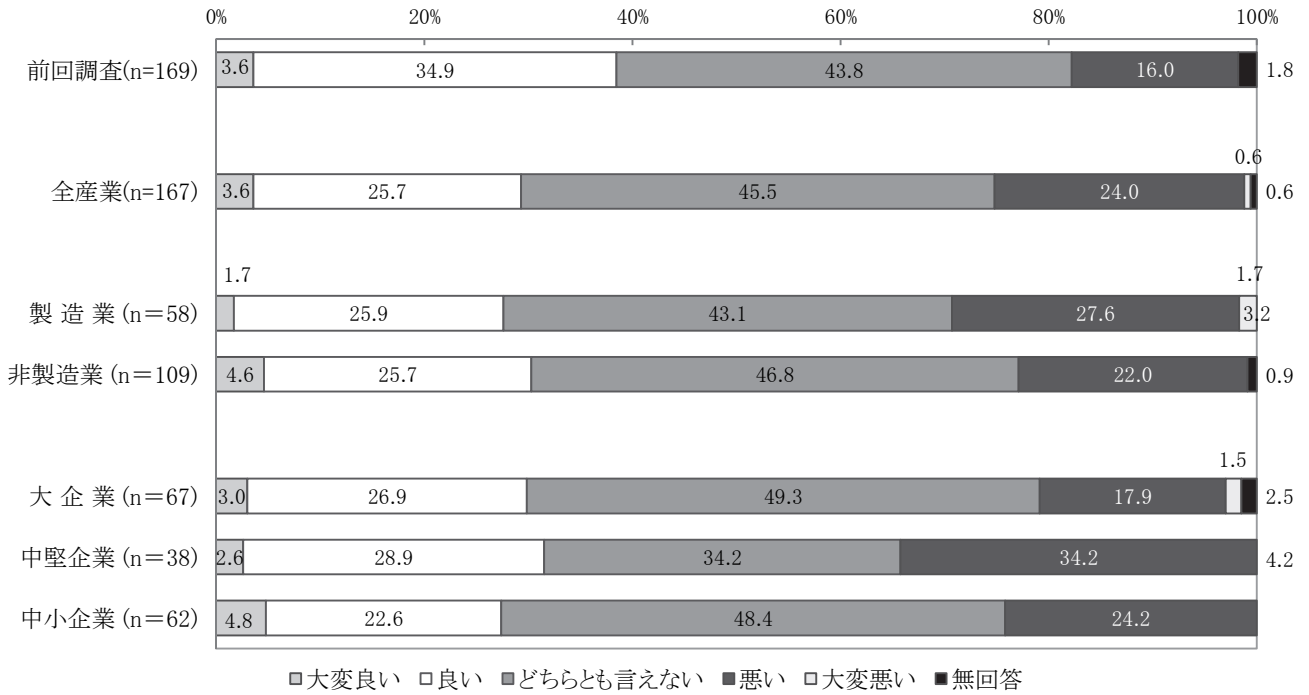
（「改善」「やや改善」） - （「悪化」「やや悪化」）社数構成比

単位：%ポイント

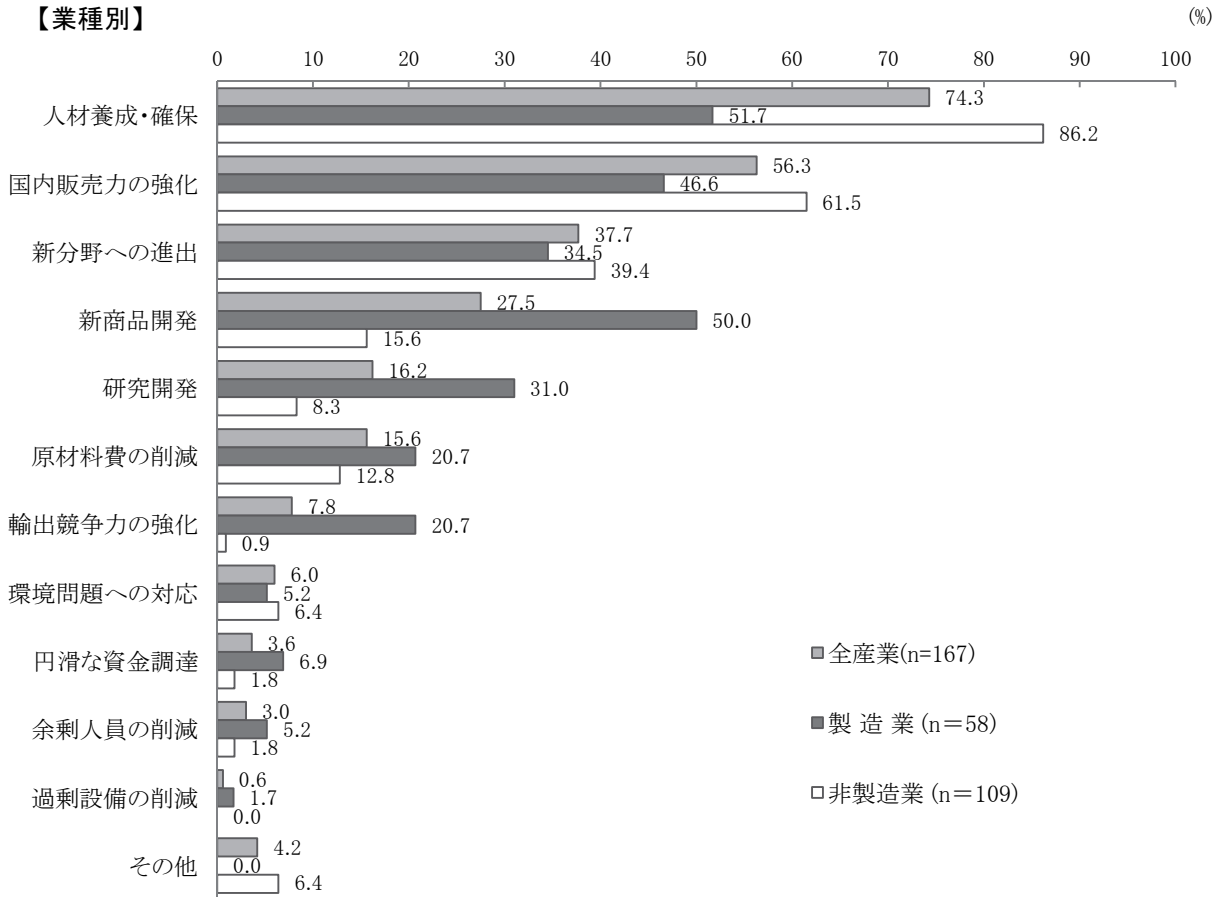
		前回調査		今回調査			
		27年4～9月(前期)		27年10～3月(今期)		28年4～9月(見通し)	
		業績判断BSI		業績判断BSI	変化幅	業績判断BSI	変化幅
	全産業	18.3	▲0.6	▲18.9	5.4	6.0	
業種	製造業	24.1	1.7	▲22.4	17.3	15.6	
	非製造業	15.3	▲1.8	▲17.1	▲0.9	0.9	
規模	大企業	33.4	▲7.5	▲40.9	9.0	16.5	
	中堅企業	7.0	▲2.6	▲9.6	▲5.2	▲2.6	
	中小企業	10.0	8.1	▲1.9	8.0	▲0.1	

注) 27年10～3月(今期)の変化幅は27年4～9月(前期)との対比、28年4～9月(見通し)の変化幅は27年10～3月(今期)との対比。

図表7. 現在の業績水準



図表8. 経営上の課題（3つまで回答）

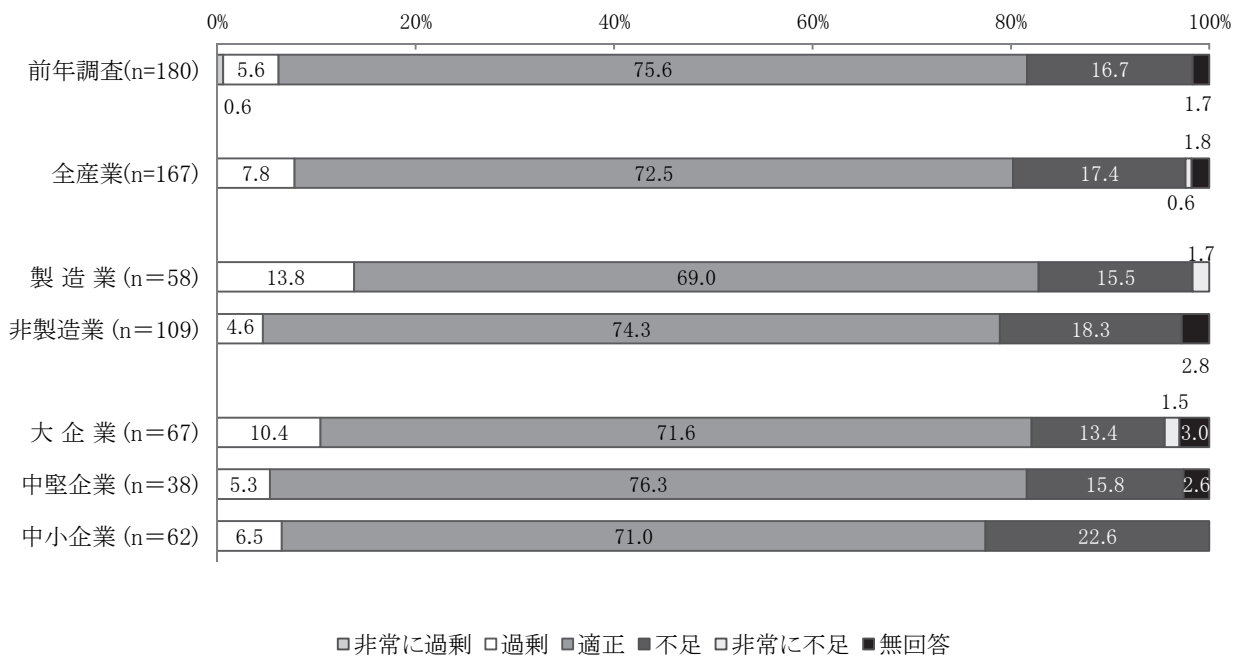


Ⅲ. 設備投資

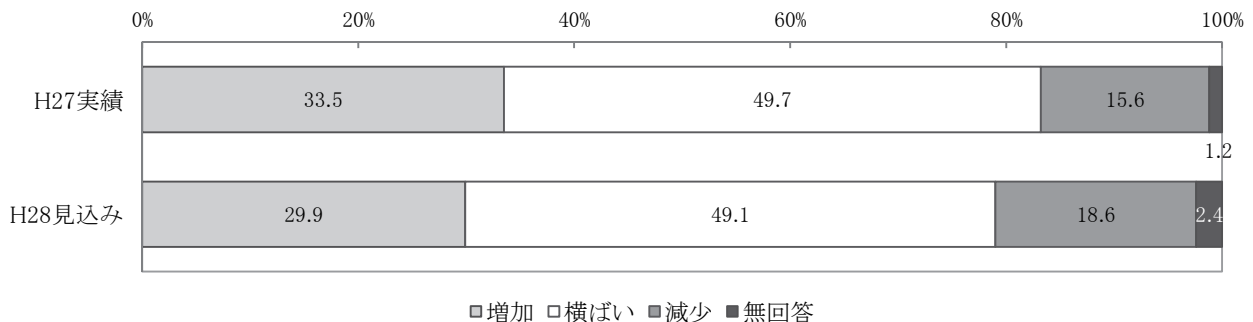
現状の設備水準は適正とする企業が多数で、28年度の設備投資見通しは27年度とほぼ同様の傾向

- ・ 現在の設備水準については、「適正である」と答えた企業が72.5%で、前回調査（75.6%）を下回り、「過剰」「不足」がそれぞれ微増となっている。（図表9）
- ・ 設備投資の前年対比については、27年度は「増加した」と答えた企業（33.5%）が「減少した」と答えた企業（15.6%）を上回った。28年度の見込みについても、「増加する」と答えた企業（29.9%）が「減少する」と答えた企業（18.6%）を上回り、引き続き設備投資は増加傾向にある。（図表10）
- ・ 28年度の設備投資が増加するとした理由を尋ねたところ、「設備の維持・更新が必要」（74.0%）が最も多く、「情報技術(IT)投資が必要」（30.0%）、「国内需要が増加する見通し」（16.0%）が続いている。（図表11）

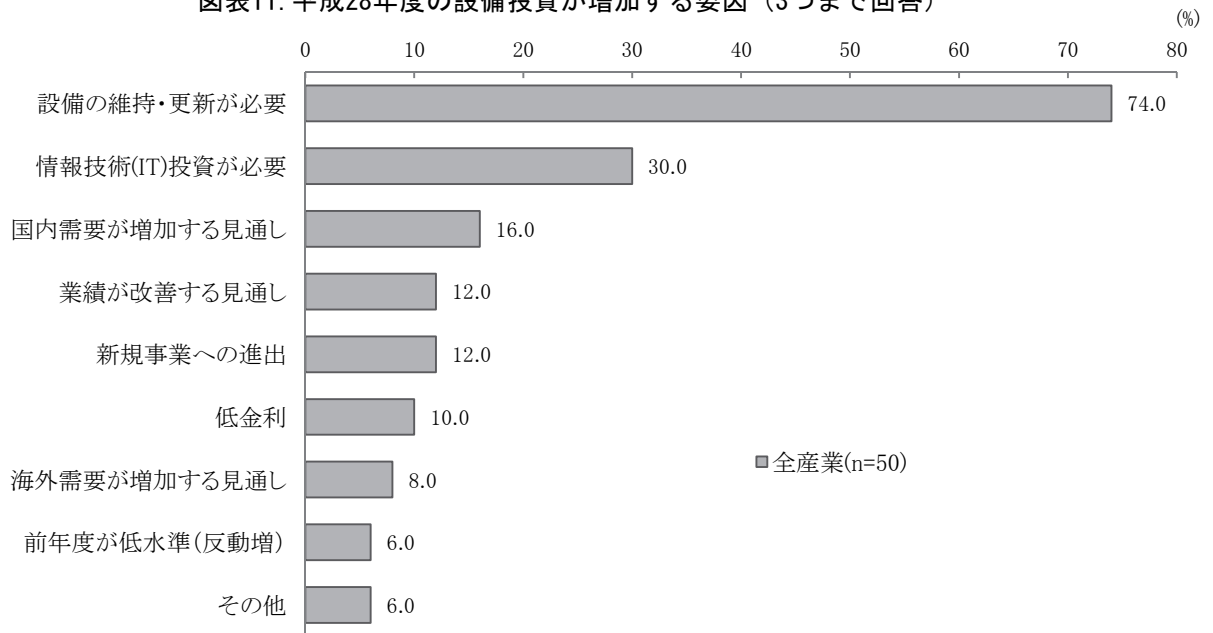
図表9. 現在の設備水準



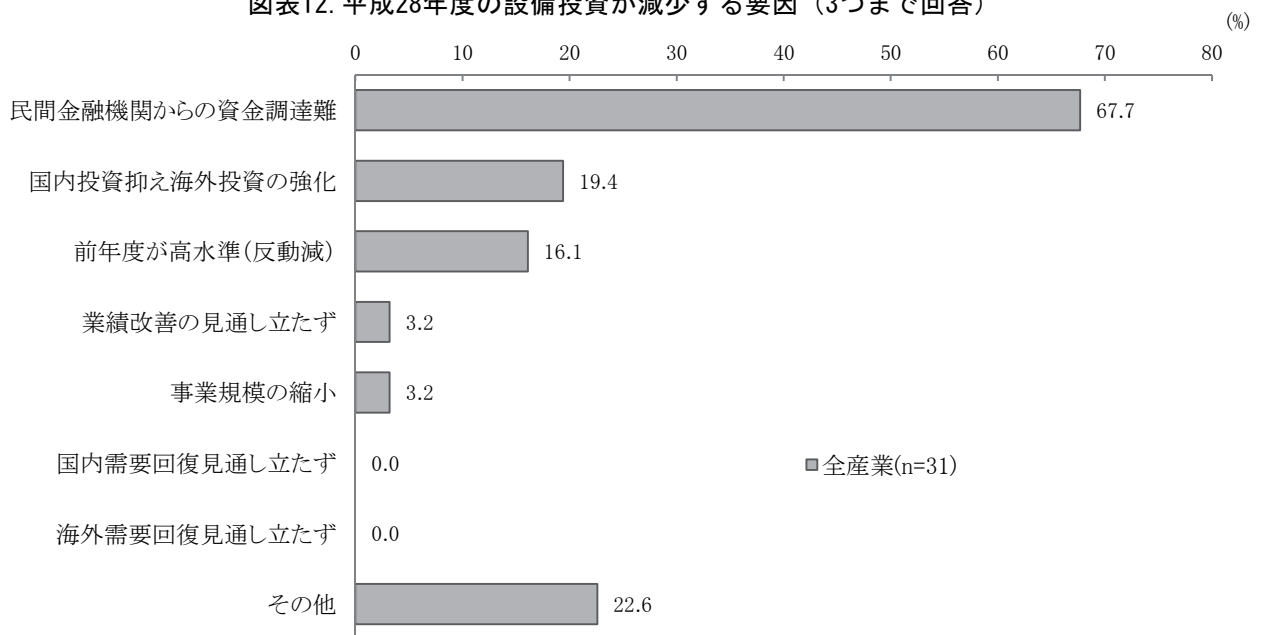
図表10. 設備投資（前年度比）



図表11. 平成28年度の設備投資が増加する要因（3つまで回答）



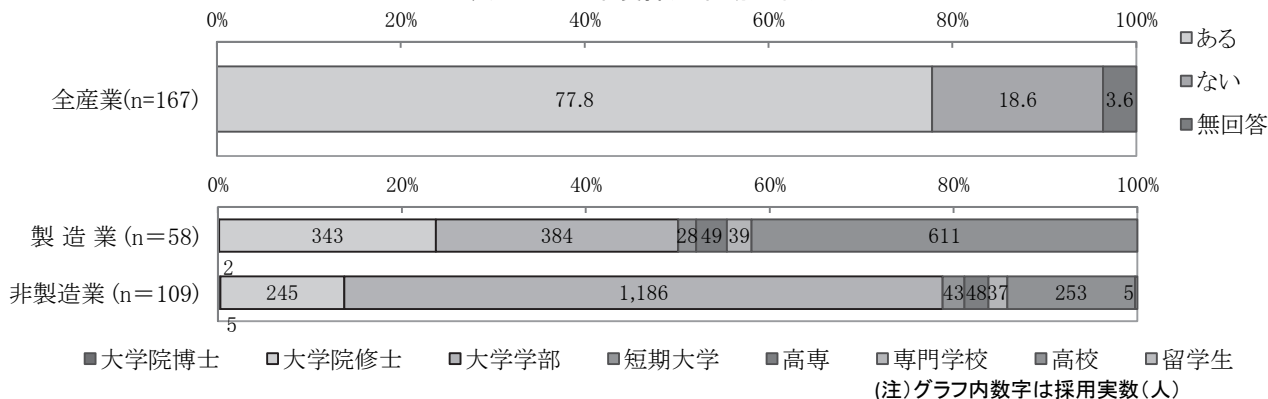
図表12. 平成28年度の設備投資が減少する要因（3つまで回答）



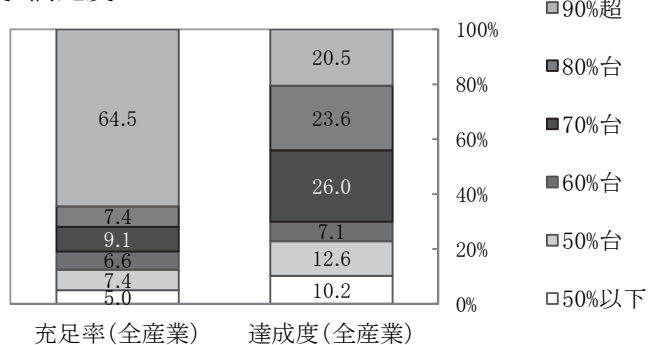
IV. その他

- ・ 2015年度採用活動（2016年4月新卒者等）では77.8%が採用しており、採用者の構成としては製造業では大学修士、学部卒が同程度、非製造業では大学学部卒が多く採用されている。
- ・ 採用活動の充足率については、全産業で6割超が90%以上と答えており、9割以上が50%以上の返答。達成度・満足度（印象）についても、8割近くが60%以上と返答している
- ・ 達成度・満足度（印象）が低かった理由については、就職活動時期変更の影響、内定辞退者の増加、採用目標未達、大手企業の大量採用等があげられた。また、その是正のための対応では採用活動時期の変更、説明会等への参加強化、内定辞退を防ぐ取組強化、企業の魅力アップ・相互理解深化、採用活動の強化等の意見があった。
- ・ 大学生のインターンシップの受け入れについては55.1%の企業に経験があり、規模別に見ると大企業(59.7%)、中堅企業(63.2%)に比べ中小企業では45.2%と低下する。(図表16.)

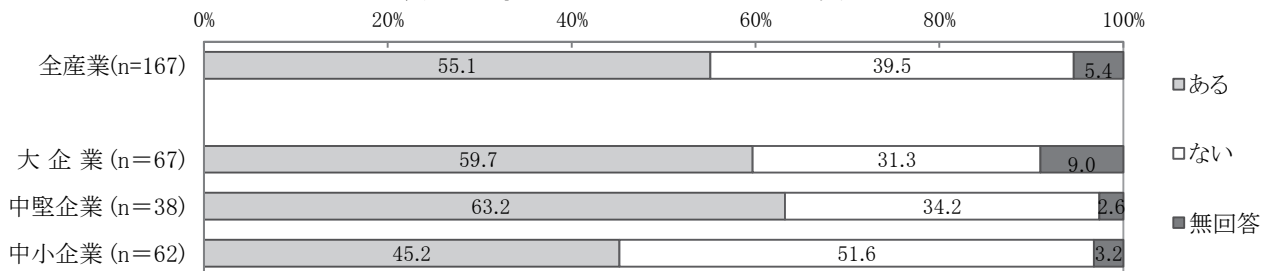
図表13. 2015年度採用活動の状況



図表14. 充足率及び達成度・満足度



図表15. 大学生のインターンシップの受入

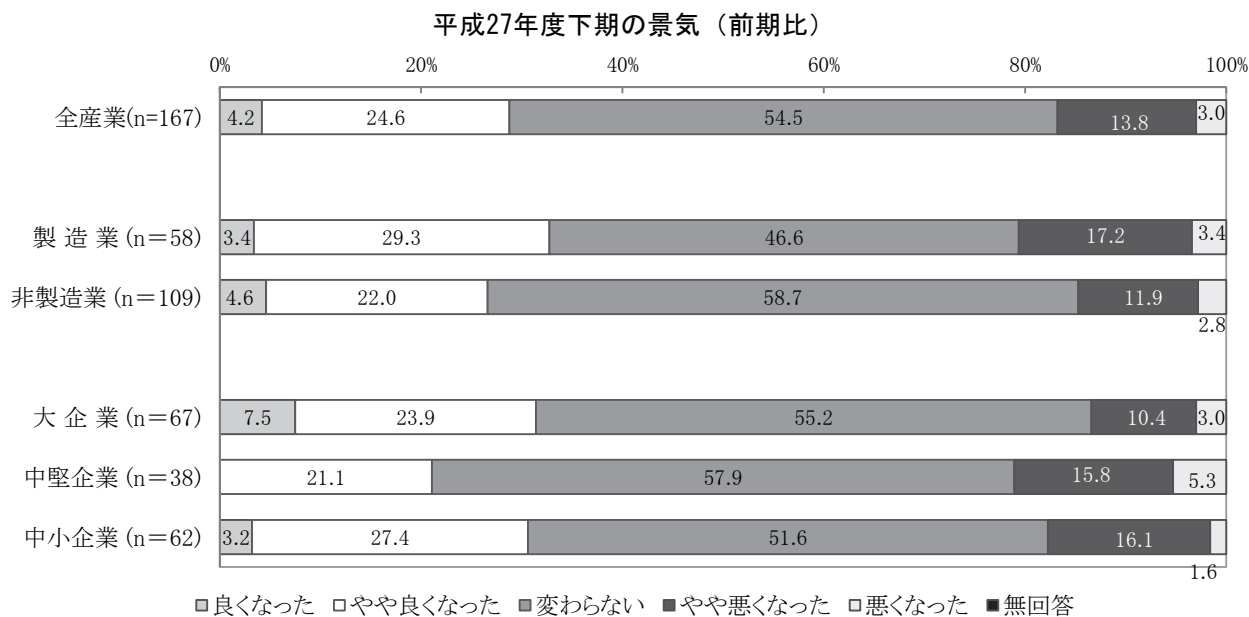


参考(アンケート調査結果)

I 景気動向

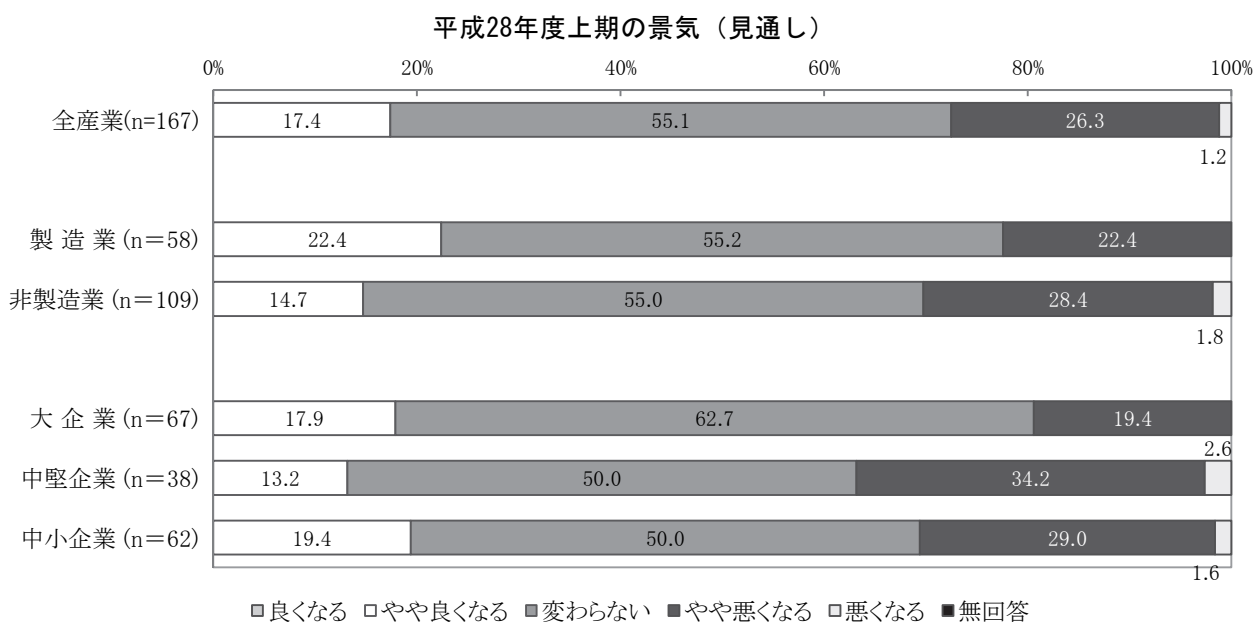
Q.1

北陸地域の平成27年度下期(10月～3月)の景気は平成27年度上期(4月～9月)に比べてどのように変化したと思われますか。(季節的要因を除外してお答え下さい。)



Q.2

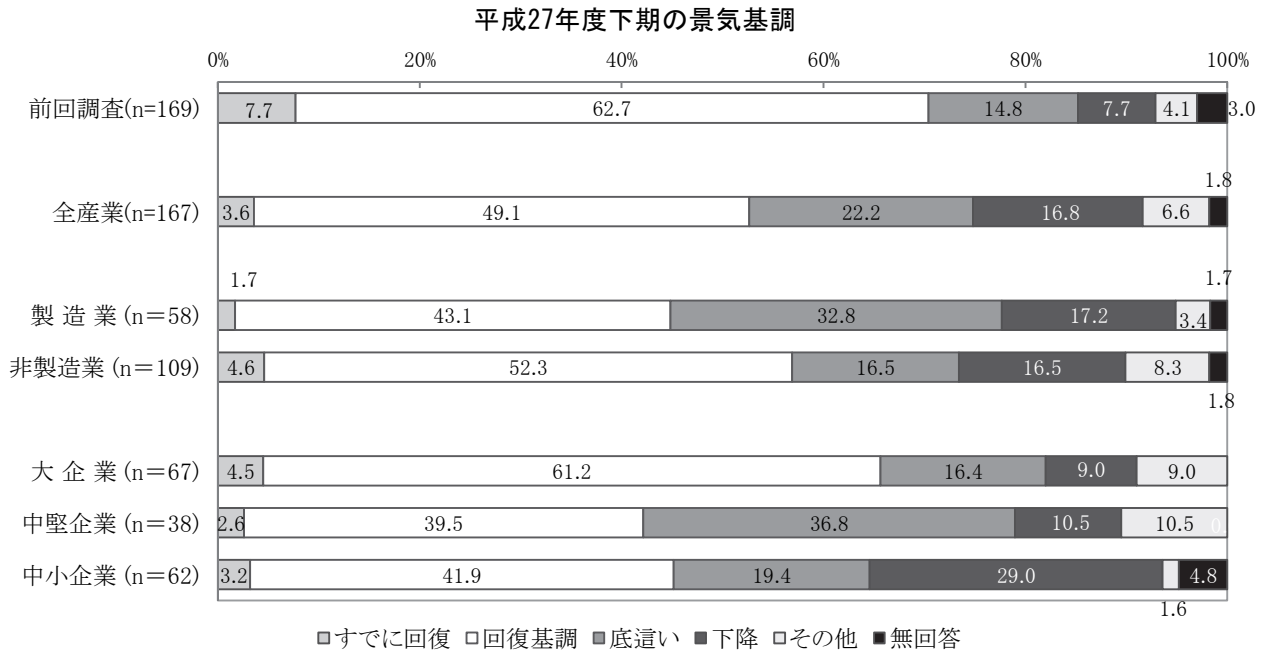
北陸地域の平成28年度上期(4月～9月)の景気は平成27年度下期(10月～3月)に比べてどのように変化すると思われますか。(季節的要因を除外してお答え下さい。)



I 景気動向

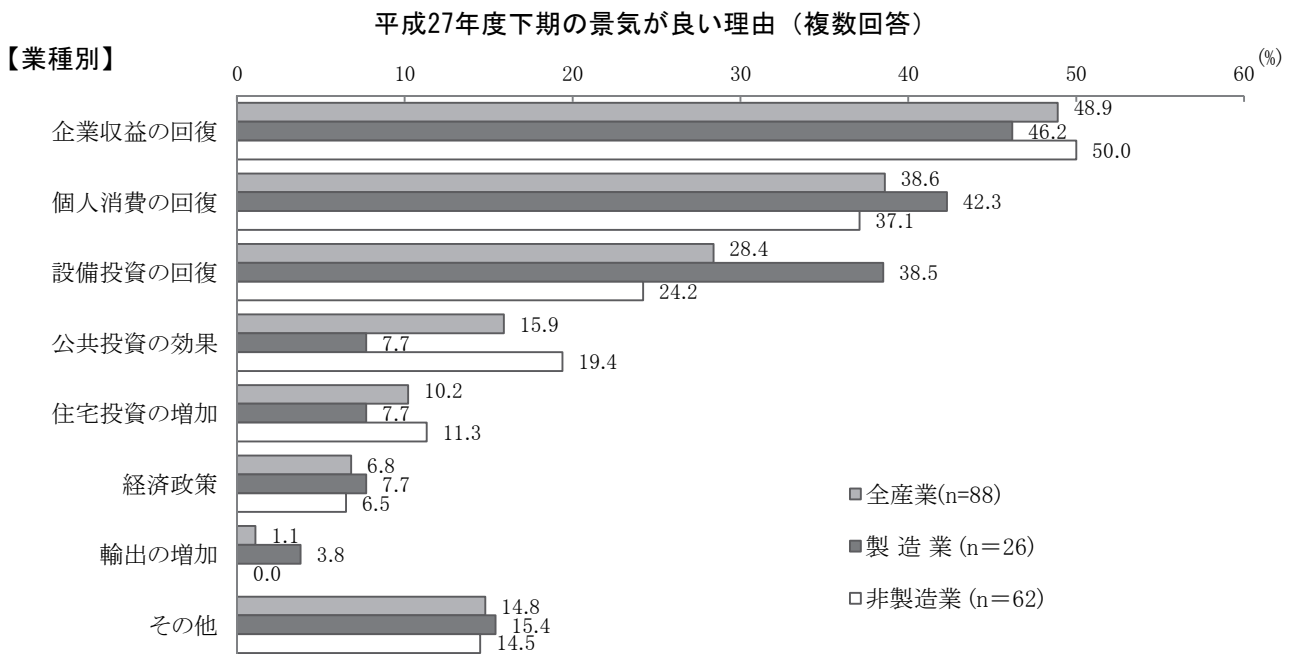
Q.3

平成27年度下期(10月～3月)の北陸地域の景気は基調として以下のどの局面にあると判断されていますか。



Q.4

Q.3で「すでに回復」「回復基調」と回答された方へ
平成27年度下期(10月～3月)の景気が良いのは何によるものだと思いますか。(複数回答可)



◎経済政策の具体的な回答

- ・新幹線
- ・大会(コンベンション)誘致
- ・アベノミクス
- ・株価上昇

◎その他の具体的な回答

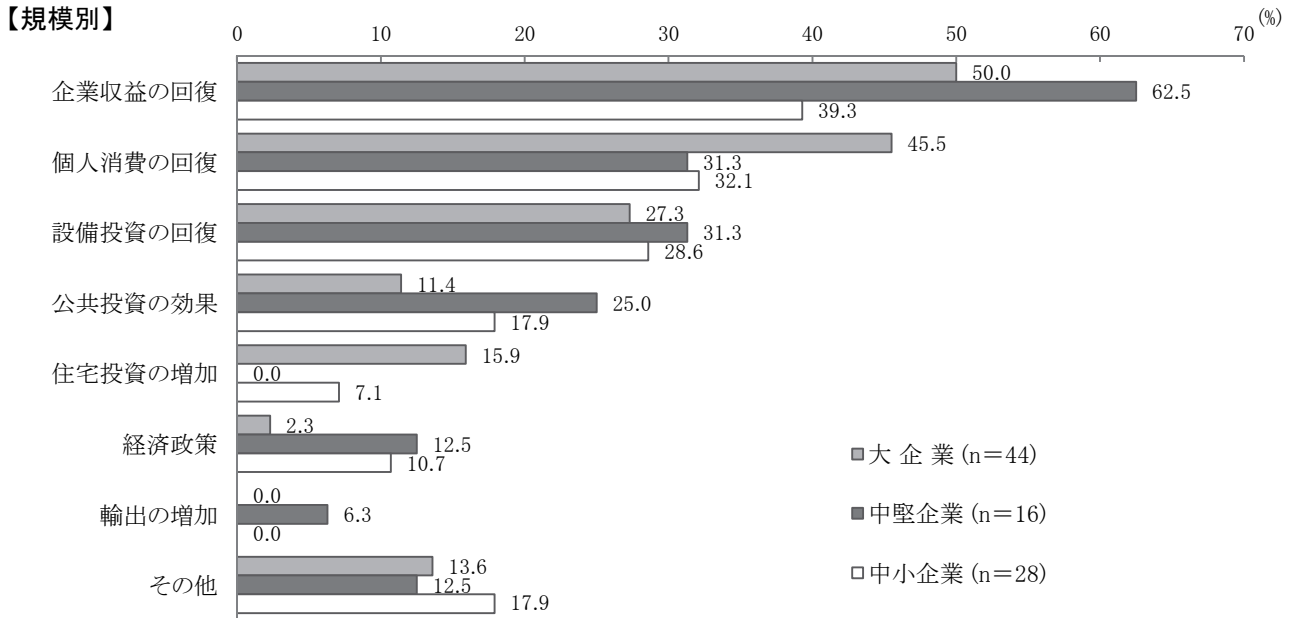
- ・北陸新幹線関連
- ・観光客の増加

I 景気動向

Q.4

Q.3で「すでに回復」「回復基調」と回答された方へ
 平成27年度下期(10月～3月)の景気が良いのは何によるものだと思いますか。(複数回答可)

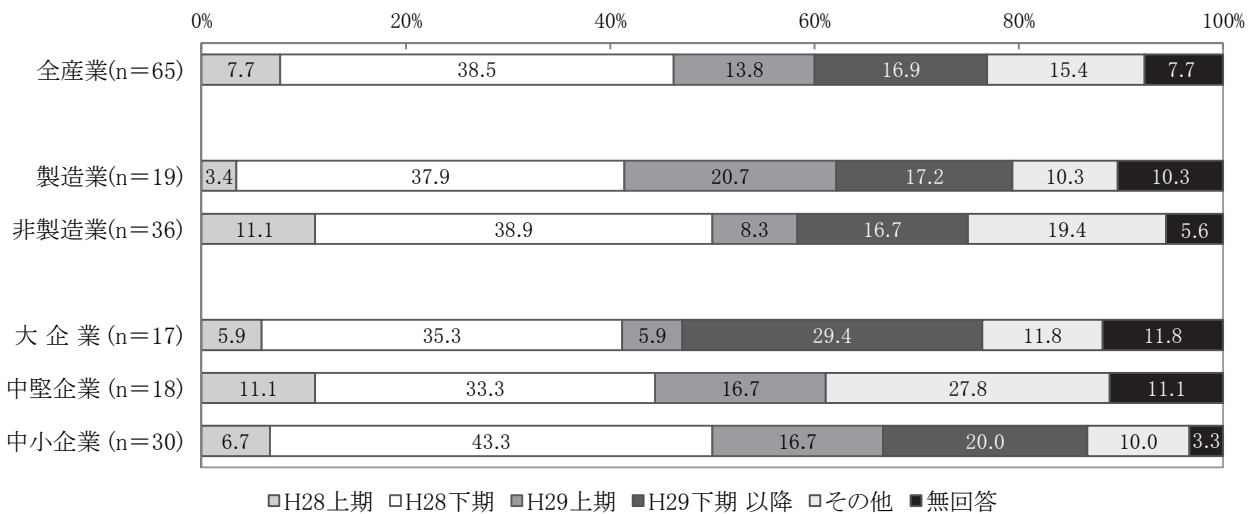
平成27年度下期の景気が良い理由(複数回答)



Q.5

Q.3で「底這い」「下降」と回答された方へ
 北陸地域の景気が今後回復に転じると予想される時期はいつ頃と思われますか。

景気が回復に転じる時期



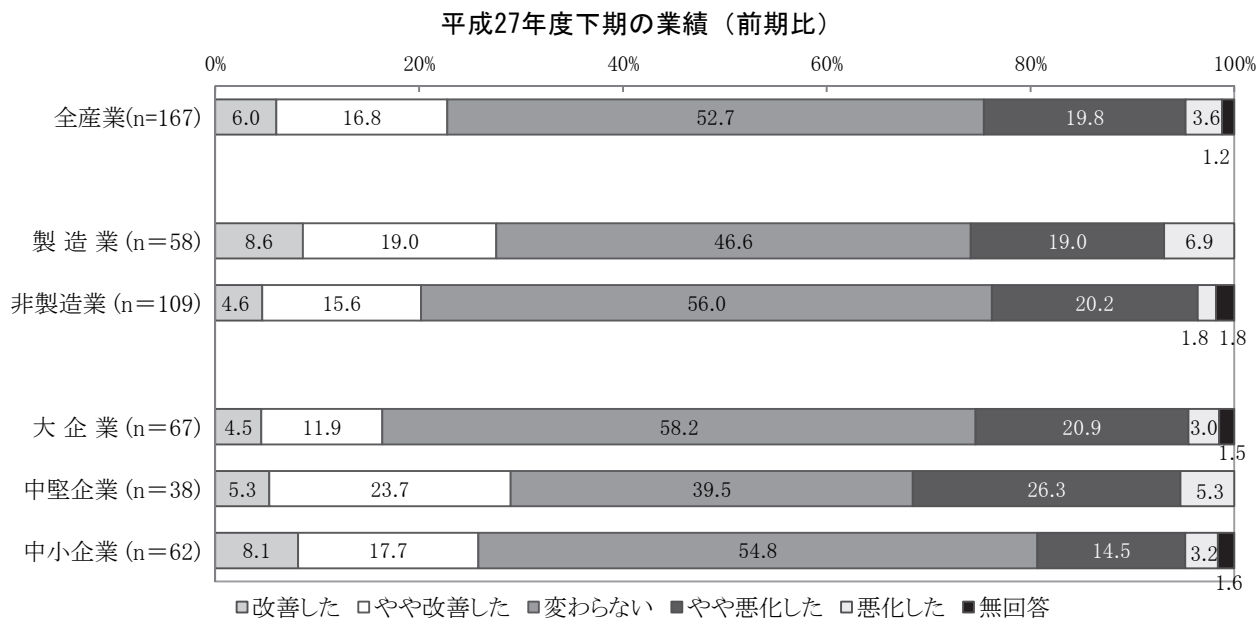
◎その他の具体的な回答

- ・平成35年北陸新幹線敦賀開業 ・オリンピック後
- ・中国経済及び米国金利動向次第

II 業績

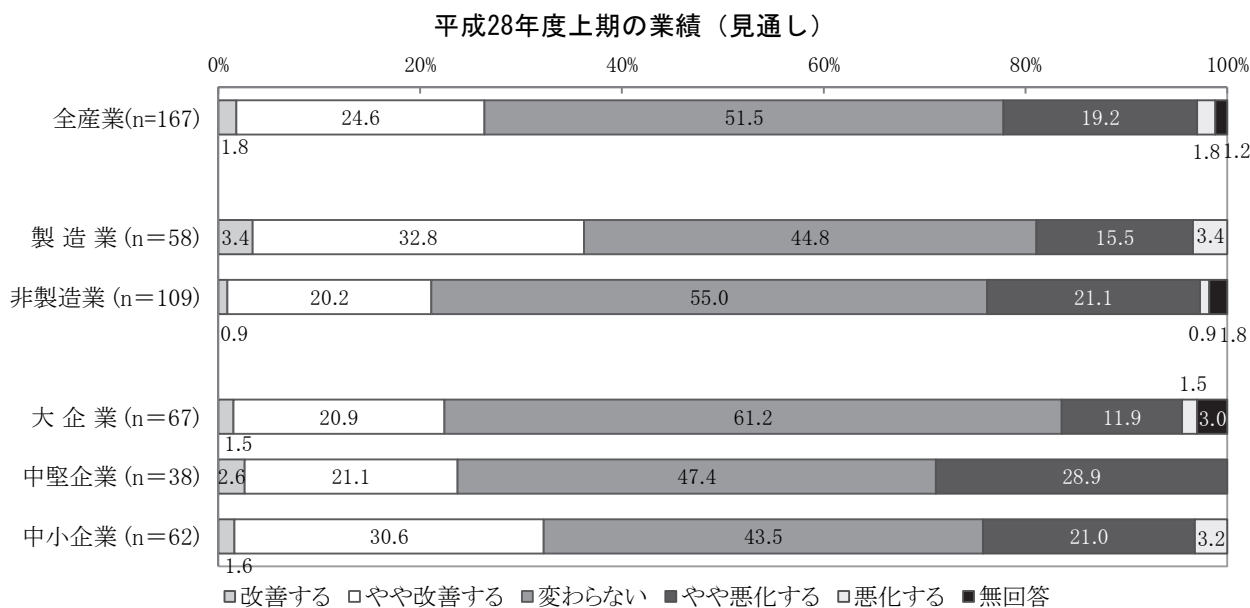
Q.1

貴社の平成27年度下期(10月～3月)の業績は、平成27年度上期(4月～9月)に比べてどのように変化しましたか。(季節的要因を除外してお答え下さい。)



Q.2

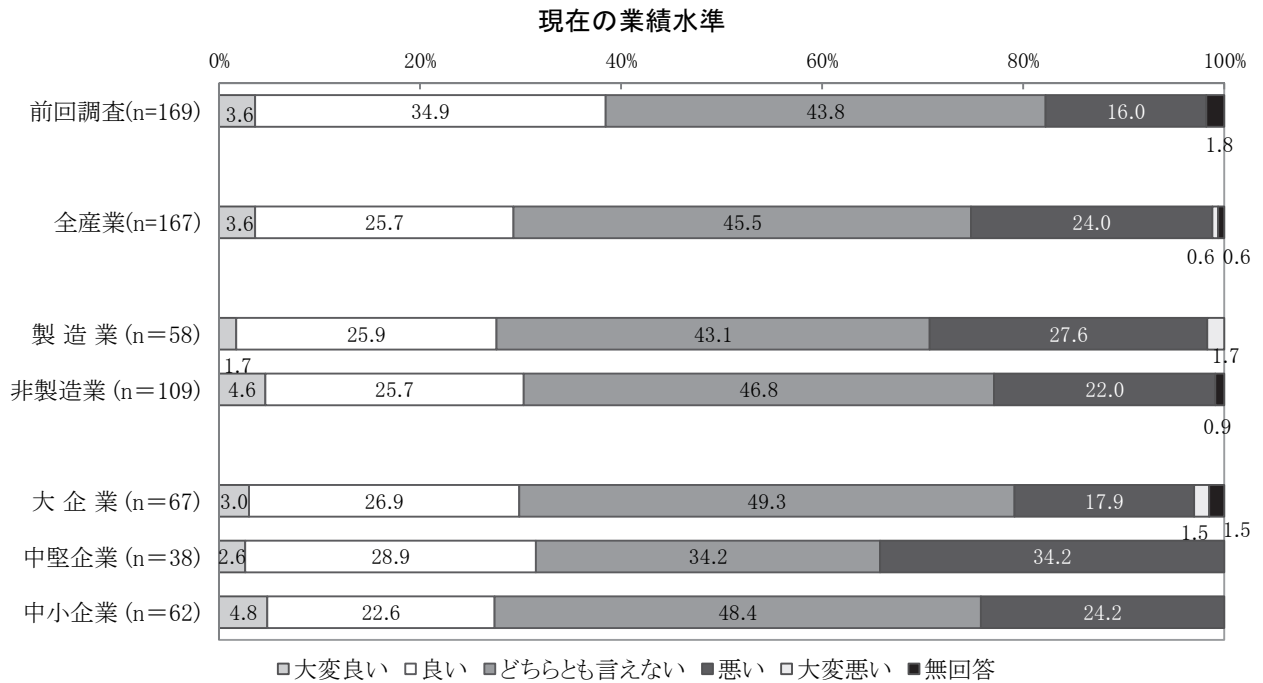
貴社の平成28年度上期(4月～9月)の業績は、平成27年度下期(10月～3月)に比べてどのように変化すると思われますか。(季節的要因を除外してお答え下さい。)



II 業績

Q.3

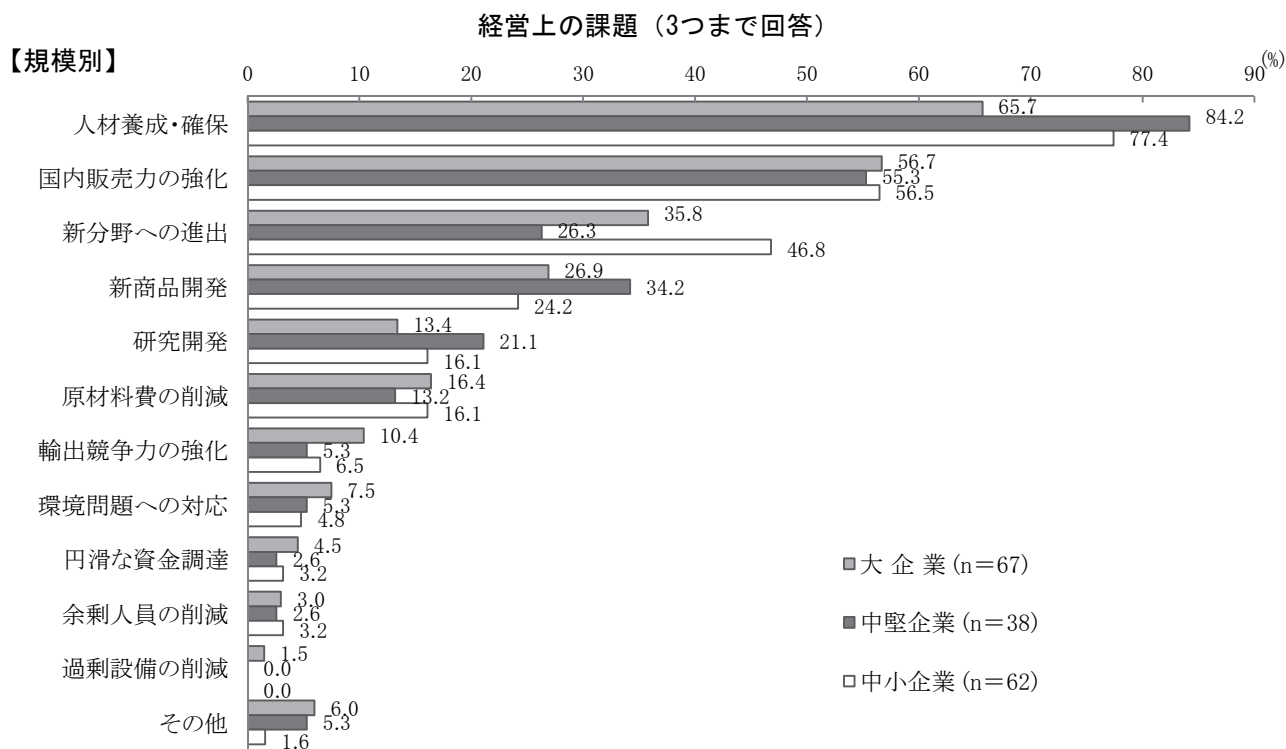
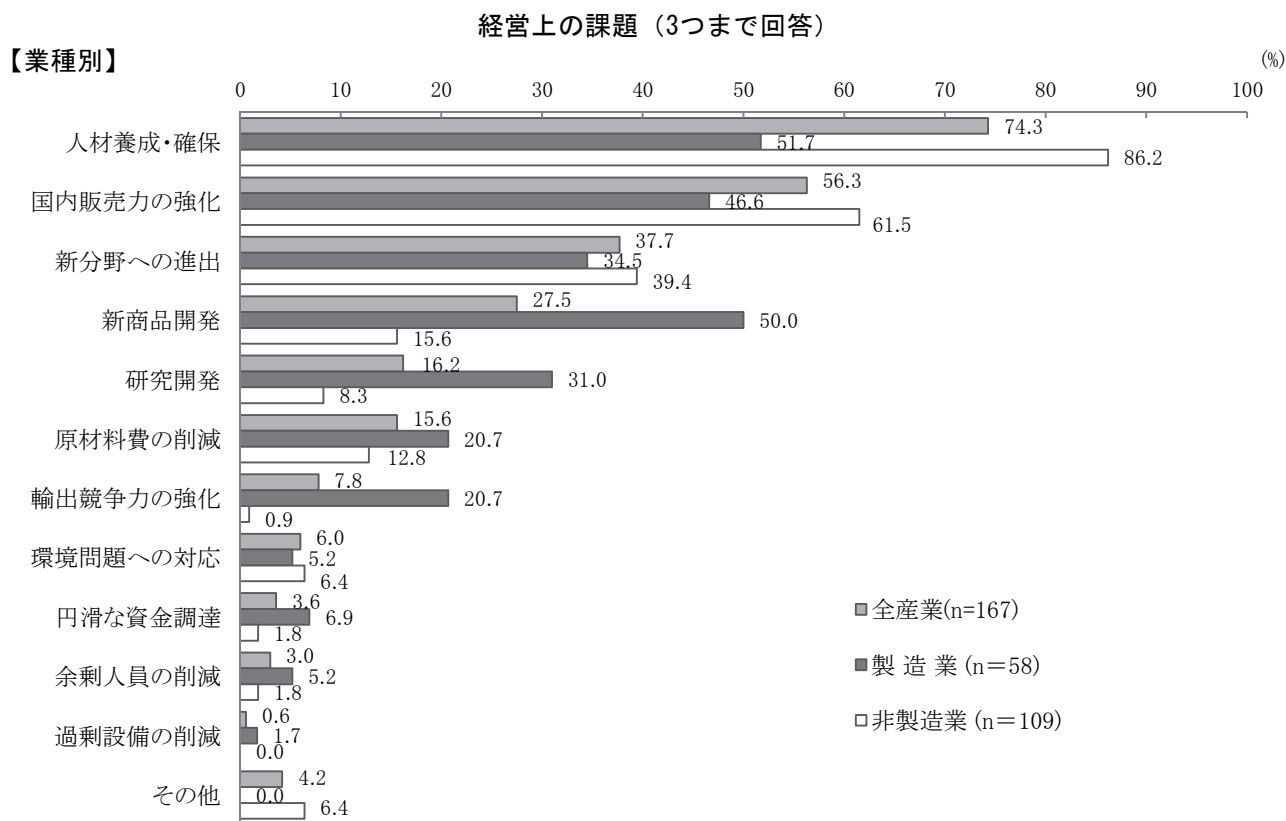
現在の貴社の業績水準についてどう思われますか。



II 業績

Q.4

貴社にとっての経営上の課題は、どのような点でしょうか。(3つまで回答可)



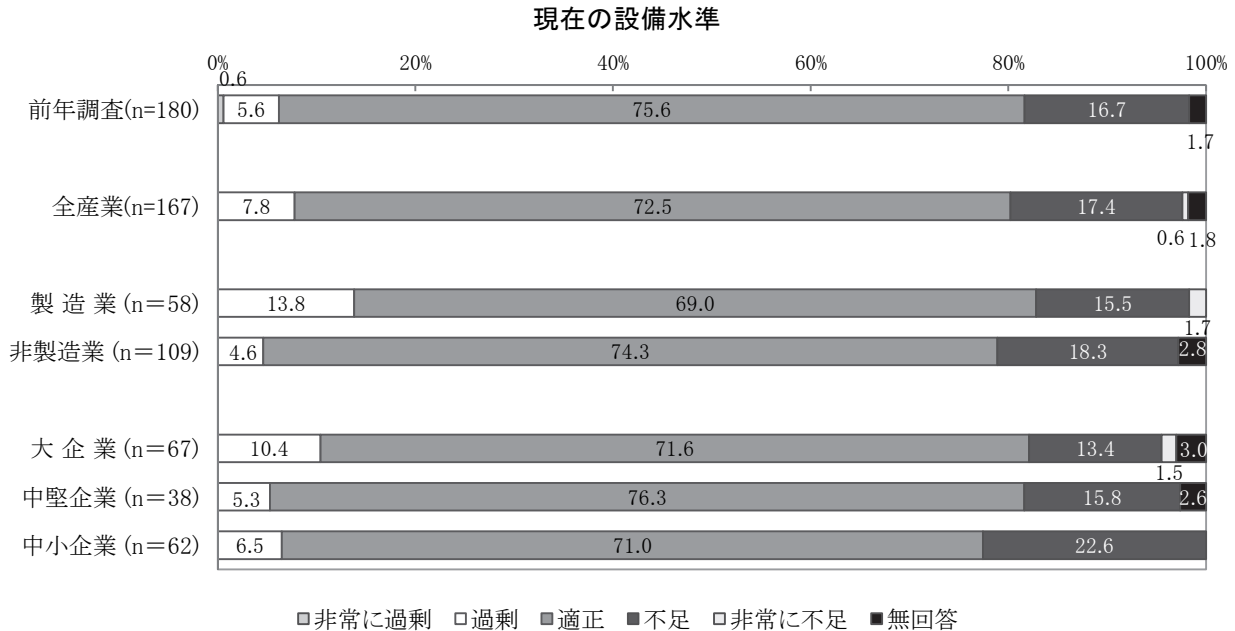
◎その他の具体的な回答

・施設老朽化、人口減など ・人口減少、高齢化

III 設備投資

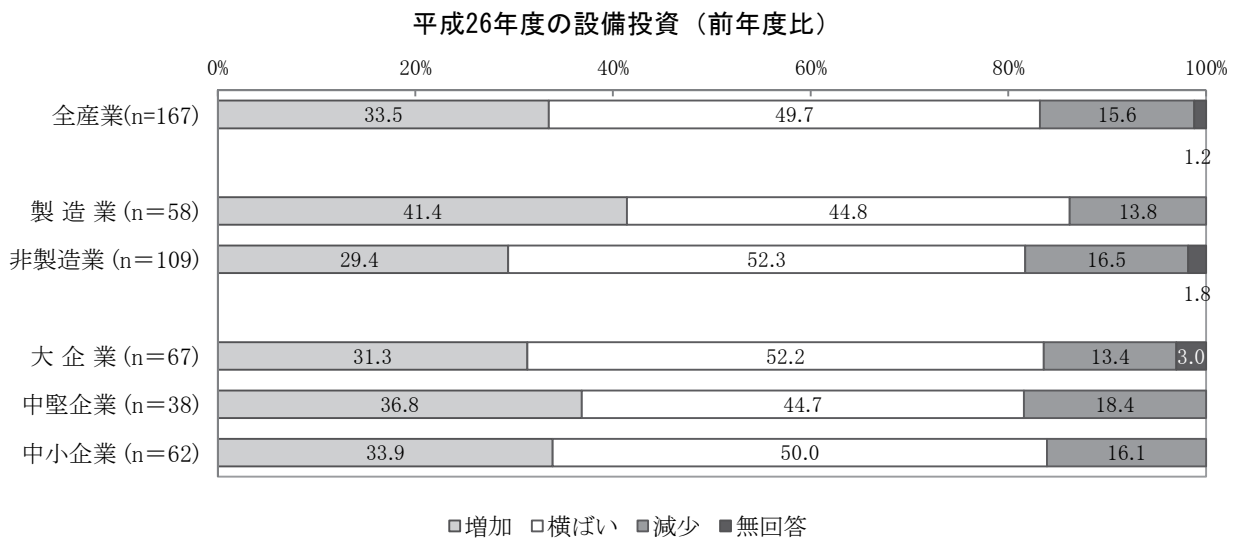
Q.1

貴社の現在の設備水準はどうか。



Q.2

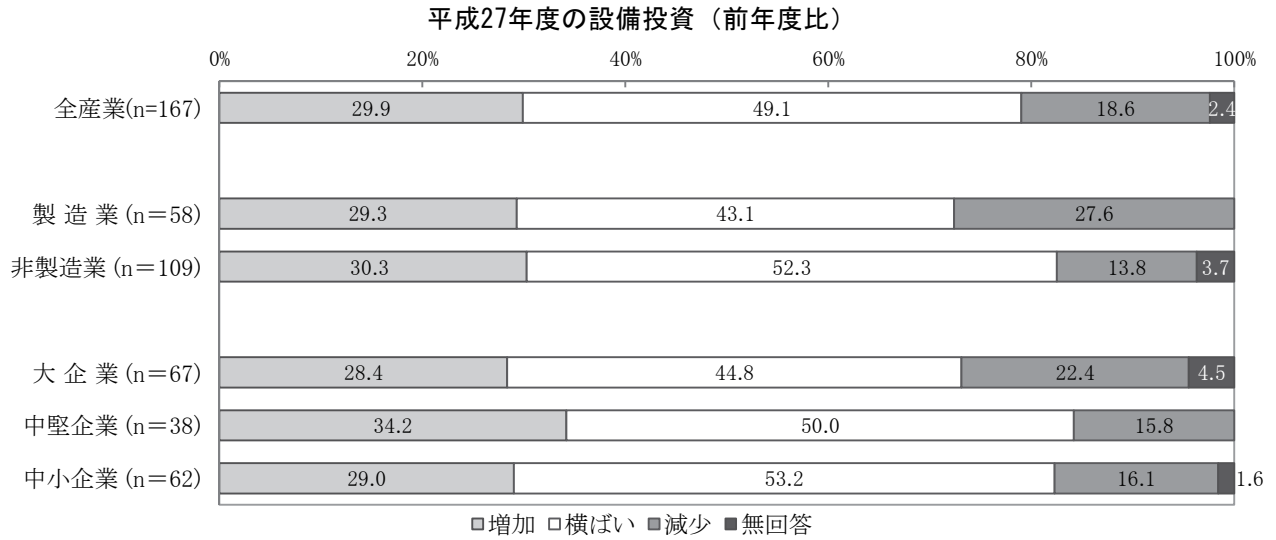
貴社の平成27年度の設備投資は平成26年度に比べ、増加しましたか、減少しましたか。



III 設備投資

Q.3

貴社の平成28年度の設備投資は平成27年度に比べ、増加する見込みですか、減少する見込みですか。

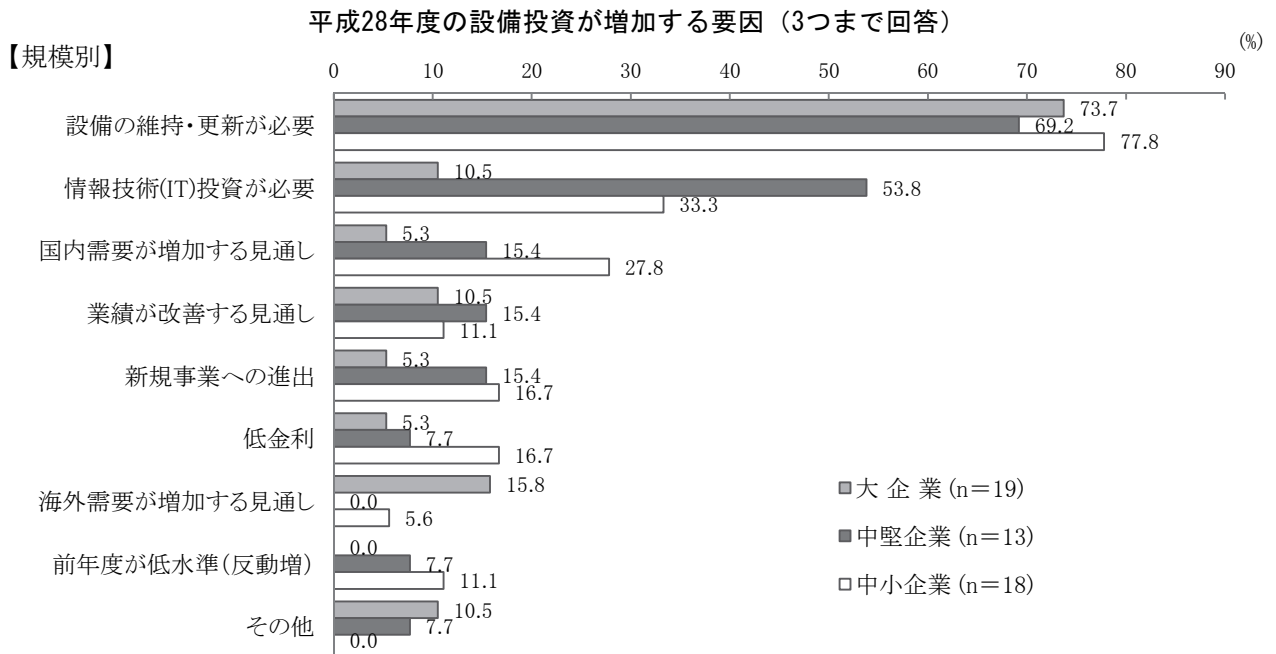
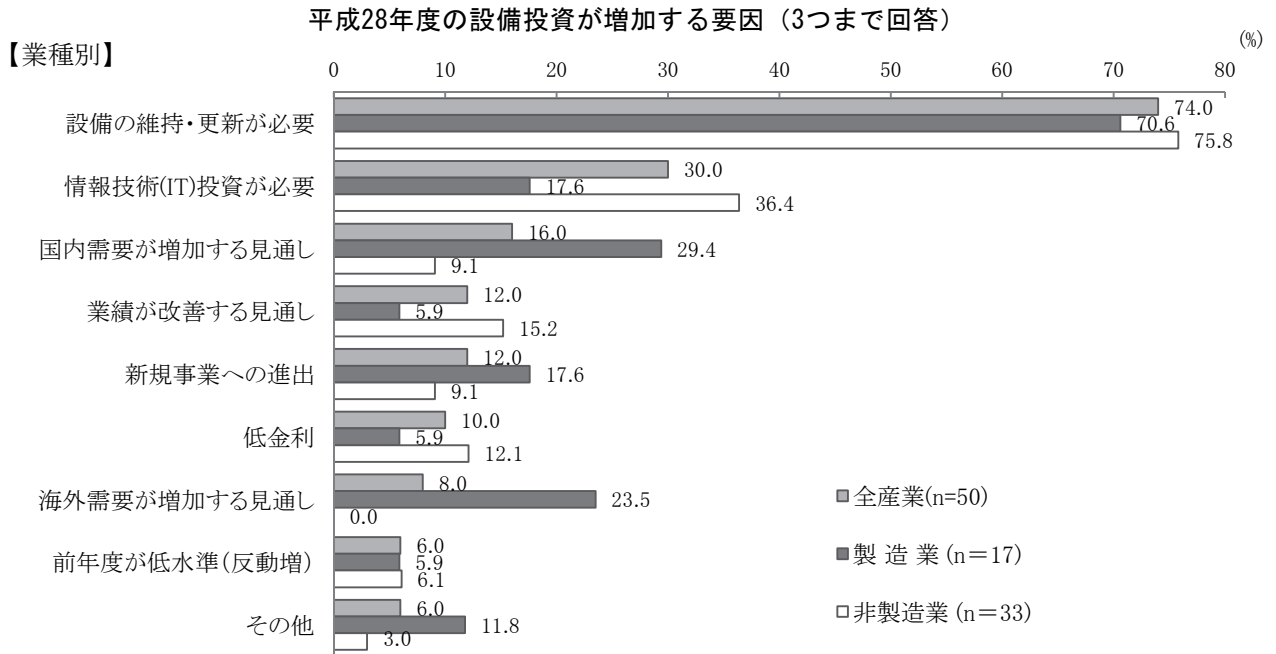


III 設備投資

Q.4

Q.3で「増加する」と回答された方へ

平成28年度の設備投資が、平成27年度と比較して増加する要因をお答えください。(3つまで回答可)

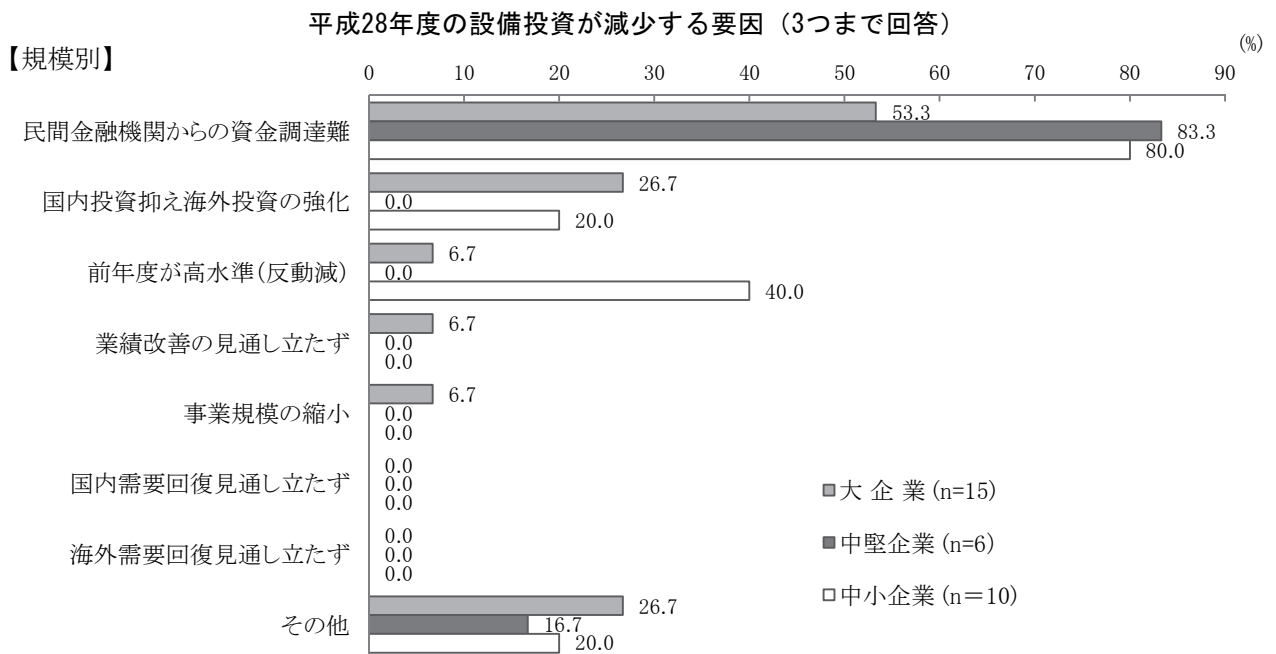
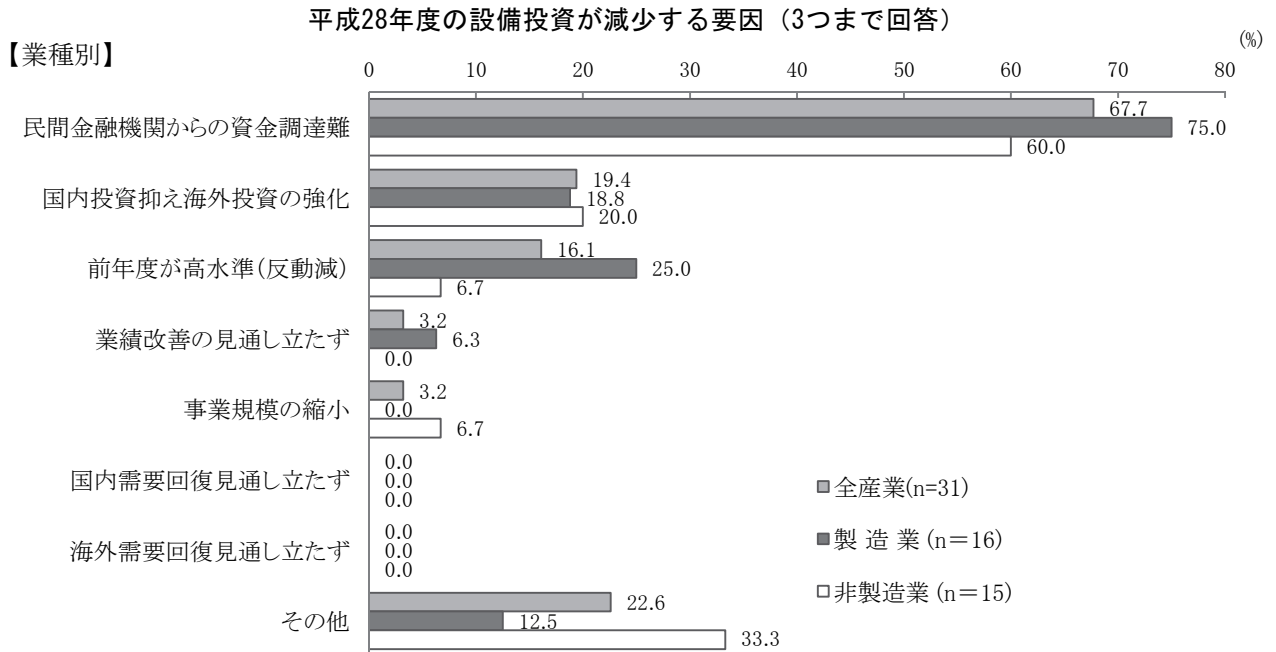


III 設備投資

Q.5

Q.3で「減少する」と回答された方へ

平成28年度の設備投資が、平成27年度と比較して減少する要因をお答えください。(3つまで回答可)



◎その他の具体的な回答

- ・ 設備更新サイクルのピークではない
- ・ 景気見通しが不透明
- ・ 新幹線効果を期待して前年度設備投資を増やしたため

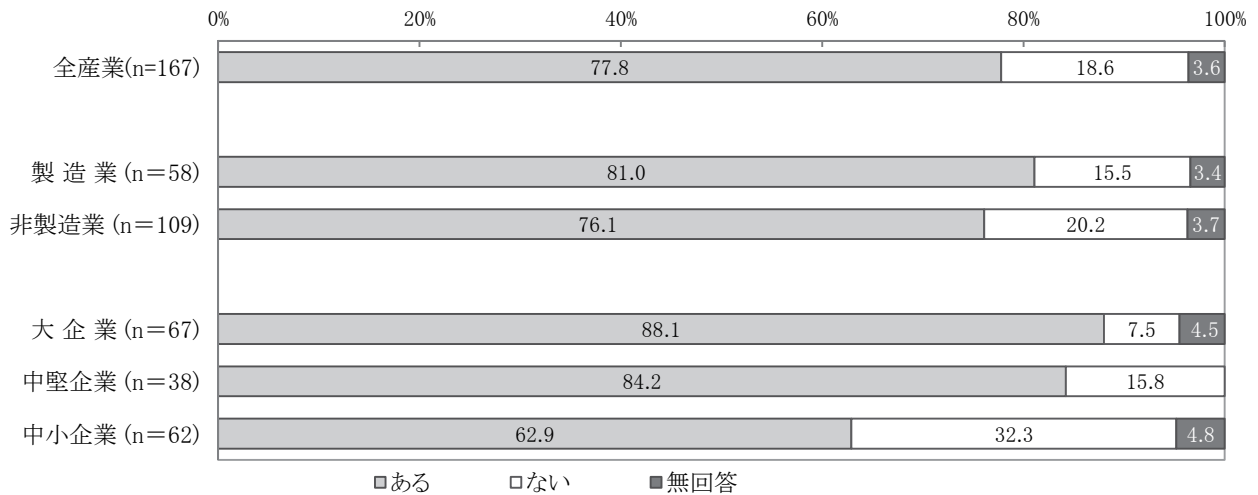
IV その他

1. 2015年度採用活動(2016年4月新卒者等)に関してお聞きします。

Q.1

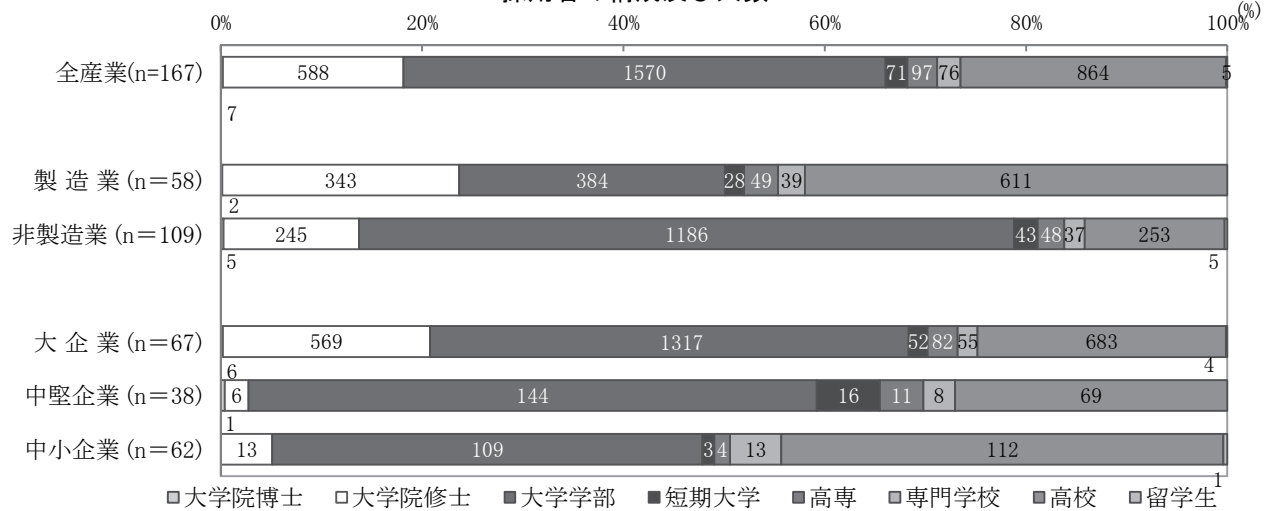
2015年度新卒者の採用はございましたか。またその構成及び人数をお聞かせください。

2015年度新卒者の採用



採用者の構成及び人数

数字は採用実数(人)



単位:人

【採用人数】	大学院博士	大学院修士	大学学部	短期大学	高専	専門学校	高校	留学生
全産業	7	588	1,570	71	97	76	864	5
製造業	2	343	384	28	49	39	611	0
非製造業	5	245	1,186	43	48	37	253	5
大企業	6	569	1,317	52	82	55	683	4
中堅企業	1	6	144	16	11	8	69	0
中小企業	0	13	109	3	4	13	112	1

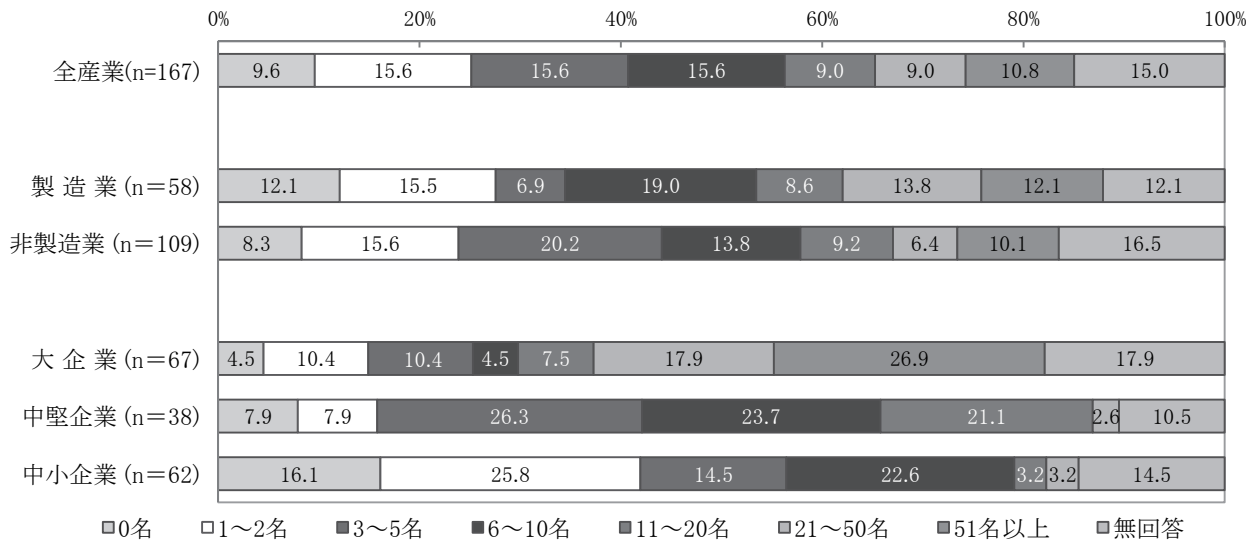
IV その他

1. 2015年度採用活動(2016年4月新卒者等)についてお聞きします。

Q.2

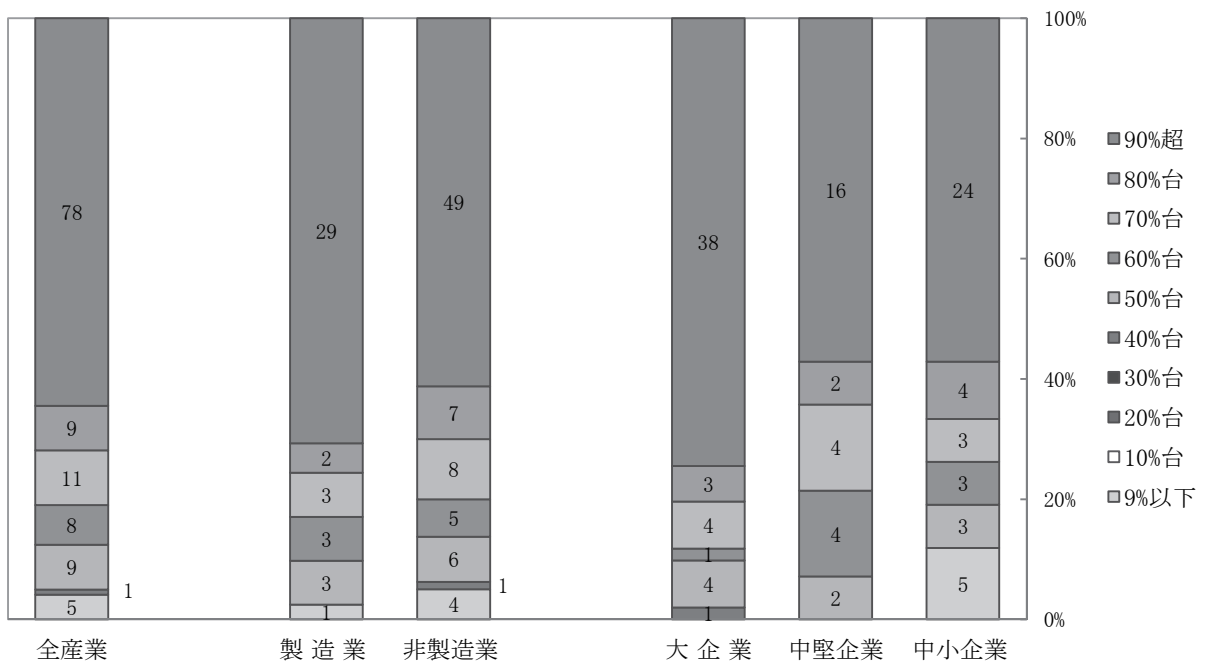
2015年度新卒者等の採用予定(目標)人数は何名でしたか。また充足率をお聞かせください

2015年度新卒者の採用目標



充足率

数字は回答実数(社)

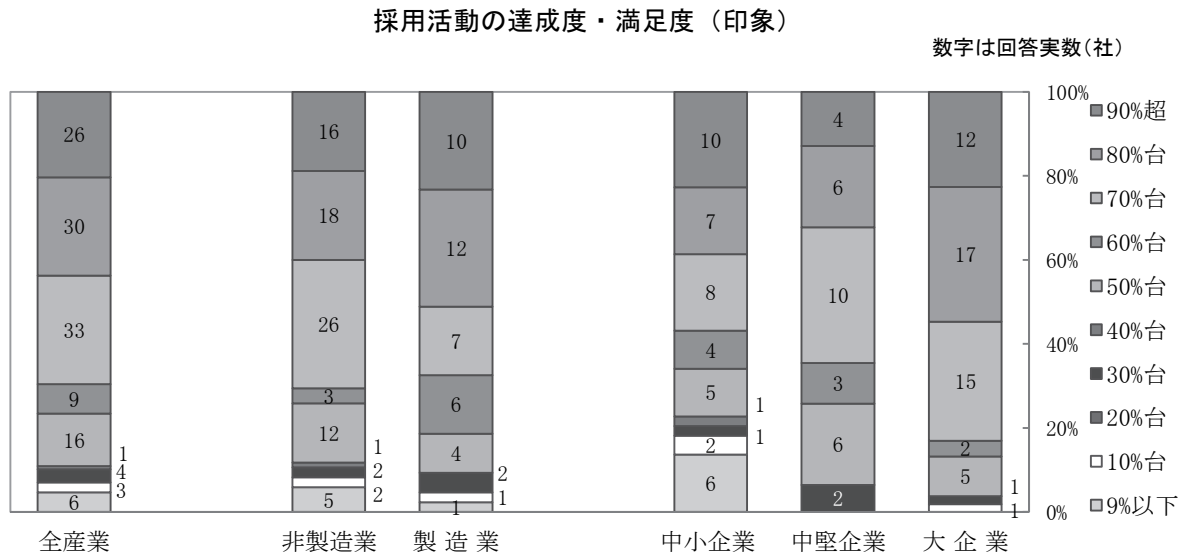


IV その他

1. 2015年度採用活動(2016年4月新卒者等)に関してお聞きします。

Q.3

貴社採用活動の達成度・満足度(印象)をお聞かせください。



Q.4

達成・満足度が低かった(60%以下)理由はどのようなところにありますか。

・就職活動時期変更の影響

募集開始時期を遅らせたことで人材確保に苦労した 同様意見1件
 変更による対応の難しさ
 採用活動の遅れにより、学生がどう活動すれば良いか分からず、混乱
 企業(会社)説明会から採用面接までの準備期間が短かった
 6月1日(採用試験解禁)時点で、多くの学生に内々定が出ている様子
 内定通知の早い企業が有利
 採用スケジュールの変更に伴う内定辞退率の増加
 求人活動が長期化(高卒と平行して行った)

・内定辞退者の増加

解禁時期の影響か、内定辞退者が予想以上に多かった
 辞退率が50%を超え、二次、三次と募集を行った
 採用者の辞退の為、採用やり直し
 大学での辞退が多かった
 大卒者については相次いで内定辞退があった
 内定辞退者続発/能力水準低下
 予想以上に辞退者が多かった
 内定のキャンセルが増加 ほか同様意見6件

・採用目標未達(人数・能力)

人数、レベルとも目標以下
 採用目標未達
 よい人にめぐり会えなかった
 薬剤師の採用に苦戦
 採用したい学生層からの応募が少なかった。(特に都市圏の大学へ進学したUターン層の学生)
 説明会の参加が工場見学につながらなかった

・大手企業の大量採用

大手企業関連の事業が地方に移しやすくなった為もあり売手市場になり中小へ人材が廻っていない
 採用活動のタイミングが読めない事と大手の大量採用

IV その他

1. 2015年度採用活動(2016年4月新卒者等)に関してお聞きします。

Q.5

設問4の是正のためには何が必要だと思われますか。またどのように対応していきますか。

・採用時期の変更

中小企業にとって大企業が後から採用試験等があり、その結果次第にてキャンセルが続き、中小を幾分遅らせる方が良いのか

採用開始を早める

大企業より早めに動く。内定後のフォローをしっかりと。就職協定に惑わされない

大手企業と中小企業のタイムスケジュールの並行化

選考時期の前倒し・選考期間の短縮 ある程度の内定辞退を見越した採用活動の実施

早期に内定を出しても、後半になって辞退者が出て、結果的に採用活動が長引いた

採用活動の十分な時間の確保

早期の採用活動、絞り込んだ学校との密着度を高める。都市部UターンIターン組の取り込み
夏までに大卒求人活動を終わりたい

・説明会等への参加強化

大学高校へ説明会開催に参加

合同企業説明会への積極的参加

合同説明会に限らず、大学への直接アプローチを強化

説明会の回数を増やす。関東・関西・中京方面の説明会参加により企業内容を正しく伝える。

学生と早期接触と企業理解が必要であり、積極的に事前の企業研修会に参加

・内定辞退を防ぐ取組強化

内定者への細かなフォロー こまめに近況を確認したり、内定者向けの研修を実施

内定辞退を防ぐための効果的な採用活動を実施

リクルーター活用 インターンシップの活用

・企業の魅力アップ・相互理解深化

初任給の増額 作業環境・条件の改善

企業PRの強化 知名度のUP

気に入った学生への熱心なアプローチ

短期間のインターンシップ受け入れを検討

企業研究の期間がないと、学生が理解不足のままスタートとなる

・採用活動の強化

採用活動対応者の増員と活動の強化

志願者の本気度の見極め

きめ細やかな採用活動

より積極的な採用活動

・その他ご意見

年度によって時期を変更しないほしい

中小企業支援の各種施策を強化していただきたい。大企業優位な施策はやめていただきたい

ほか同様意見1件

採用活動のルールを明確にし、マナー違反を無くすような仕組みが必要 ほか同様意見1件

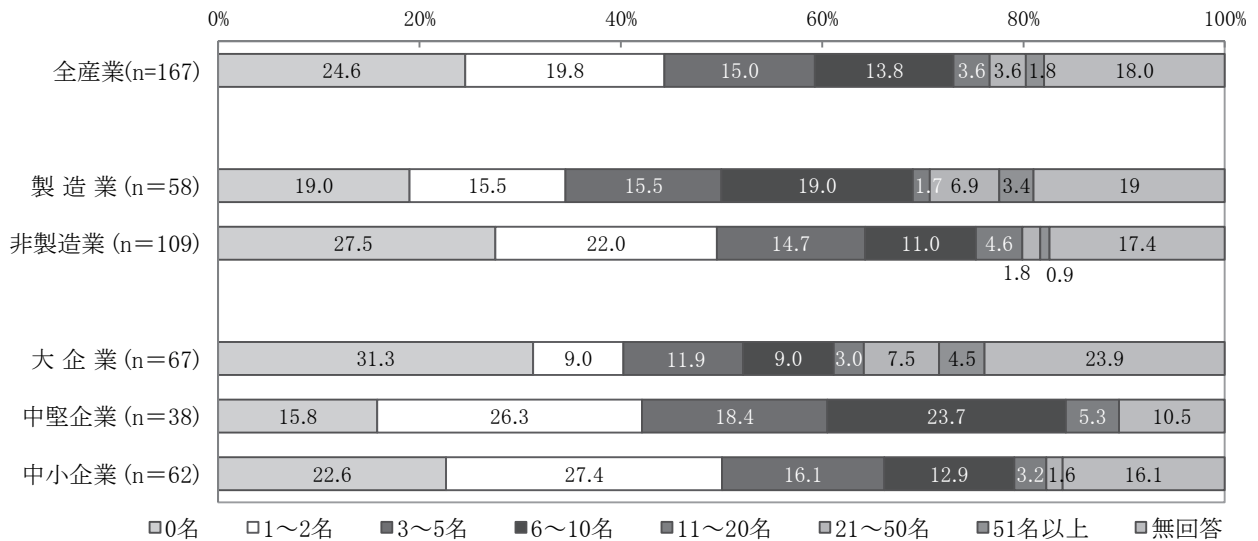
IV その他

1. 2015年度採用活動(2016年4月新卒者等)についてお聞きします。

Q.6

2015年度中途採用をされましたか。また人数をお聞かせください。

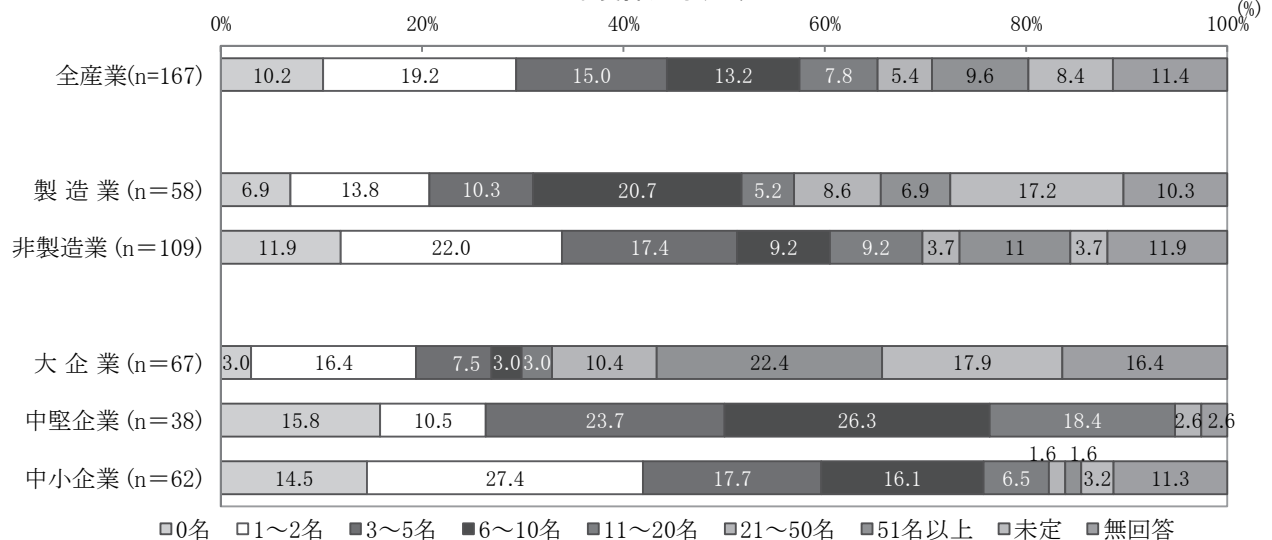
中途採用の有無及び人数



Q.7

2016年度(2017年新卒者向け)採用予定数をお聞かせください。

2016年度採用予定数

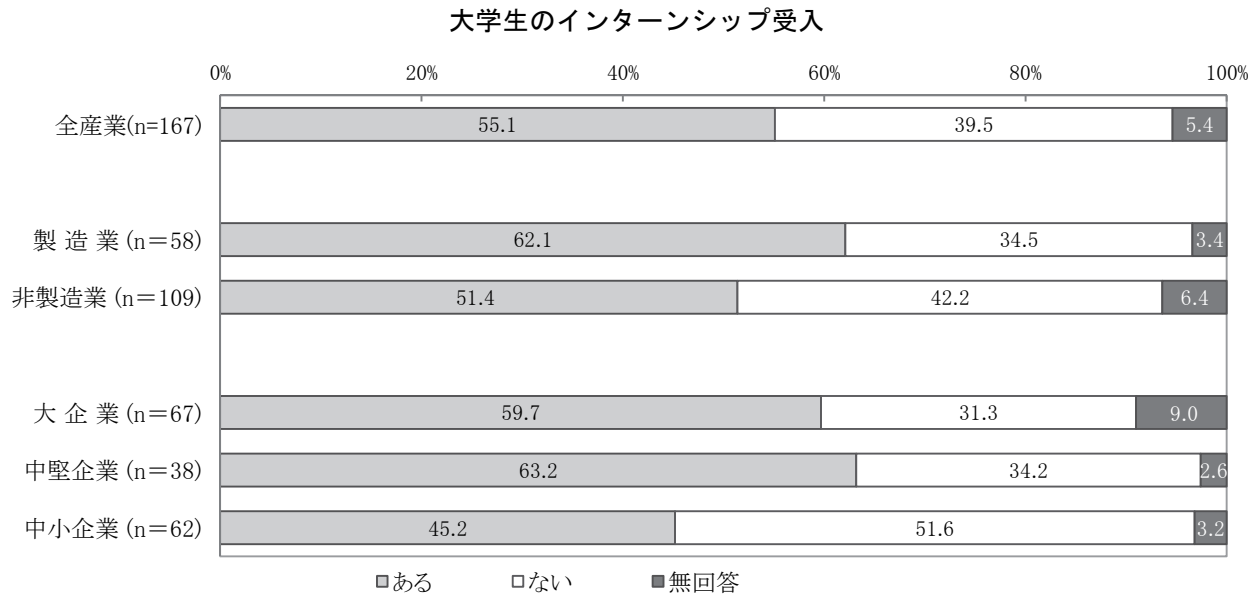


IV その他

2. 大学生のインターンシップについてお聞きします。

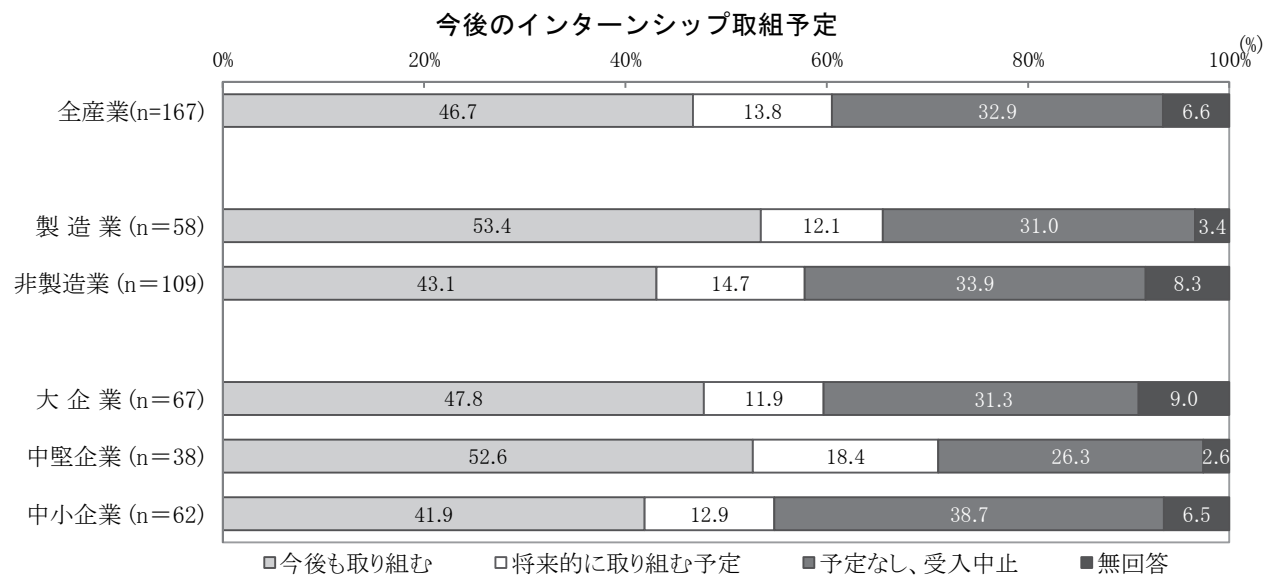
Q.1

貴社では、大学生をインターンシップとして受け入れたことがありますか。



Q.2

今後インターンシップに取り組む予定がございませうか。



IV その他

2. 大学生のインターンシップについてお聞きします。

Q.3

インターンシップに関してご意見・ご要望がございましたらどうぞ。

【意見】

- ・ 業界全体で取り組む
- ・ 就職につながらない
- ・ 学生の情報不足(事業内容や職場環境等)を補う手段として有効と思う
- ・ 受け入れるかどうか決めていない(詳細内容がわからないので)
- ・ インターンシップを継続し、優秀な学生さんの心をゆさぶり、フィーリングが一致できる事により入社してもらいたい
- ・ 小売業ではアルバイト視点との差別化が図りづらい
- ・ インターンシップ自体、採用・就活の一部となってしまう。インターンシップのとらえ方(学生も企業も)を考えなおさないといけない
- ・ 希望があるので受け入れているが当社にとってメリットがあるのかよくわからない
- ・ 単なる業務体験型でなく、企業の特長を体感できる成果体験型を目指す。
- ・ 学生と企業側のミスマッチを削減するには有効
- ・ 受入により職場の活性化につながる
- ・ 主に技術系を中心にインターンシップの強化に取り組んでおり、今後更なる拡大を予定している
- ・ 参加学生を営業区域内の学生として制限している
- ・ 薬剤師のみで実施中

【要望】

- ・ 技術系を中心とした長期間(3ヶ月程度)インターンシップを検討したい
- ・ インターンシップ参加については、学生が何を学びたいのかを事前に連絡があれば良いと思う
- ・ 期間と時期は相談させてほしい
- ・ 学生だけでなく窓口の担当教員も参加してほしい
- ・ 大学との交流を定期的に持ちたい
- ・ 会社の都合もあるので、適性な日に願いたい
- ・ 時期がバラバラなので学校間でスケジュール調整してほしい
- ・ 女子が多いので、男性の希望者を望む



ACCESS!
SUCCESS!
HOKURIKU

はじめよう、北陸サクセス。

平成28年4月12日発行

北陸経済連合会

HOKURIKU ECONOMIC FEDERATION

〒920-0981 金沢市片町2-2-15 北国ビルディング4階

TEL : 076-232-0472 FAX : 076-262-8127

e-mail info@hokkeiren.gr.jp

URL <http://www.hokkeiren.gr.jp>

北陸物語 facebook

<https://www.facebook.com/hokuriku.monogatari>